

科目名	科目担当代表教員	ページ数
情報処理	松岡 審爾	3
情報処理	松岡 審爾	8
生涯スポーツⅠ	平岡 英樹	13
生涯スポーツⅠ	平岡 英樹	18
総合教養講座	白戸 力弥	23
EnglishⅠ (Speaking & Listening)	Todd Robert Enslen	28
ことばと心理(外国語学習法入門)	沢谷 佑輔	33
フランス語Ⅰ	Nicolas Jegonday	38
ロシア語Ⅰ	鈴木 理奈	43
総合中国語Ⅰ	董 子昂	48
総合中国語Ⅲ	胡 慧君	53
中国語コミュニケーション	邢 玉芝	58
中国語入門Ⅰ	魯 諍	63
中国語入門Ⅱ	魯 諍	68
朝鮮語Ⅰ	崔 鉉鎭	73
日本語Ⅰ	阿部 仁美	78
日本語Ⅱ	富田 麻知子	83
日本語Ⅲ	傳法 智恵美	88
アウトドア・ツーリズム研修	小山田 健	93
世界と北海道	小山田 健	98
北海道の食文化	渡部 俊弘	103
Academic English Reading	Joseph S Tomasine	108
Academic English WritingⅠ	沢谷 佑輔	113
Integrated Academic EnglishⅠ	Richardson Peter	118
開発援助論	吉田 勉幸	123
国際教養入門	渡部 淳	128
国際社会と医療	田邊 芳恵	133
国際政治経済学	宮本 融	137
国際貿易投資論	宮本 融	142
世界の感染症	木村 浩一	147
地球環境論	宮本 融	151
比較政治学	宮本 融	156
EU研究	宮本 融	161
アメリカ研究	Walzem Allen George	166
国際地域文化論	渡部 淳	171
東アジア地域論	魯 諍	176
キャリアデザイン	小山田 健	181
キャリア入門	小山田 健	186
ファイナンスプランニング	小山田 健	191
経営マネジメント	芝 香	196
現代日本語論	岡本 佐智子	201

世界の言語と日本語	小西 正人		206
日本語と日本文化	岡本 佐智子		211
日本語コミュニケーション技法	小西 正人		216
日本語教育法 I	岡本 佐智子		221
日本語表現技法 I (プレゼンテーション)	矢部 玲子		226
短期語学研修	渡部 淳		231

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		情報処理(1組)				ナンバリング	1158
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。							
授業の概要							
本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。							
到達目標							
1. 課題解決のために必要な情報を探索できる。 2. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行い、それらを読み取ることによって情報の分析評価・整理ができる。 3. ワードプロソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なう情報のアウトプットができる。 4. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。 5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。							
授業の方法							
Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトによる操作やセキュリティと情報モラルに関する内容の理解については初回と試験時を除いて教科書会社が提供するeラーニングシステムにより各自が主体的に確認テスト問題を行う。							
ICT活用							
教科書に付属してアカウントを得られるeラーニングシステムを用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

eラーニングシステムにより確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【情報の探索】Web検索・インターネット情報の検証の方法を修得する。 【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの起動、画面構成を概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§2-STEP1のLesson1)。文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§2-STEP1のLesson2)	シラバスを読み、教科書1のp30～p35とp42～p47, p49～p50, p53～p58(授業では行わない)、教科書2の「情報検索」p9, p13～p15を読んでおく。(90分)。	教科書1のp51練習5を行う。タッチタイピングの練習を行う(90分)。
担当教員			
第2回	教科書が提供するWebサイト(NESS)への登録を行う。【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防技術についての知識を得る(§5-STEP1のLesson1)。	教科書1のp60～p67上半分とp250～p252を読んでおく。p80練習7の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～3の問題を解く。教科書1のp80練習7の可能な部分を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、均等割り付け、表の作成方法、ワードアートの挿入方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§5-STEP1のLesson1,2)。	教科書1のp67下半分～p75上半分とp253～p258を読み、p255練習25, p258練習26を行っておく。(90分)	教科書1のp80練習7を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～4の問題を解く。(90分)
担当教員			
第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、画像や図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する(§2-STEP2のLesson2)。 【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術を習得する。(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp75下半分～p91とp259～p262を読んでおく。p98練習8の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。教科書1のp98練習8の可能な部分を行う。(90分)
担当教員			

第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する(§2-STEP2のLesson2)。【情報の分析評価】《Excel》数値分析の概略を理解しExcelのファイル操作を習得する(§3-STEP1のLesson1)【セキュリティと情報モラル】cookie、パスワードの管理を習得する(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp92～p97, p100～p106とp263～p264,教科書2の「数値分析 I」Step1の(1)分析のポイントp18を読んでおく。(90分)	教科書1のp98練習8を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6, §3Excel-STEP2-同1～3, §5セキュ-STEP1-同5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報の分析評価】数値分析に必要な数値データについて理解する。《Excel》,データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。データの表示設定(文字・表示形式)(§3-STEP2のLesson1)を習得する。【セキュリティと情報モラル】ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺の知識を得る(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp107～p118の上とp265～p267を読んでおく。(90分)	NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第7回	【情報の分析評価】《Excel》データの表示設定(罫線の設定、行の高さ・列幅の変更)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。印刷手法(改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する(§3-STEP2のLesson2)。【セキュリティと情報モラル】著作権・知的財産権とはなにかについて知る(§5-STEP2のLesson1,2)。§2Word-Section2の試験(20問)を行います。	教科書1のp118～p129とp268～p270,教科書2の「数値分析 I」Step1の(2)数値データp19～p21を読んでおく。(90分)	教科書1のp122練習9を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト4～7, §5情報モラル-STEP2-確認テスト1～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】《Excel》数式の入力方法・コピー、合計の計算、相対参照と絶対参照の使い分け、よく使用する関数の利用法を習得する。(§3-STEP2のLesson3)。【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点について学修する(§5-STEP2のLesson2)。	教科書1のp130～p144とp271～p273を読んでおく。教科書2の「数値分析 I」Step2の(3)-2 p28～p29を読んでおく(90分)。	教科書1のp137練習12を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト5～7, §5情報モラル-STEP2-確認テスト2～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】《Excel》数学／三角関数、条件に応じて処理を変えるIF関数、ネストを習得する(§3-STEP2のLesson3)。数値分析に必要な関数の探し方を修得する。【セキュリティと情報モラル】個人情報の保護について学修する(§5-STEP2のLesson3,4)。	教科書1のp145～p152とp274～p275を読んでおく。教科書2の「数値分析 I」Step2の(3)-2 p28～p29を読んでおく(90分)	教科書1のp152練習16を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト2, §5情報モラル-STEP2-確認テスト4～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第10回	【情報の分析評価】《Excel》グラフの要素、縦棒グラフと円グラフの作成法レーダーチャートの作成、グラフの編集。複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する(§3-STEP3のLesson1,2)。	教科書1のp153～p176を読んでおく。(90分)	教科書1のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト1と3, §5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			

第11回	【情報の分析評価】Excelの機能を総合的に利用してデータを分析する方法を理解する。【セキュリティと情報モラル】ネットの危険性、ネチケツについて学修する電子メール利用のマナーについて学修する。暗号化、インターネット利用のマナーについて学修する(§ 5-STEP2のLesson4)。 § 3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を行います。	教科書1のp276～p282を読んでおく。教科書2の「数値分析Ⅱ」Step1 p36～p43を読んでおく。NESSの § 3-STEP2,STEP3確認テストを解く。(90分)	§ 5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【情報の分析評価】Excelのデータベース機能を理解し、データの並べ替え・抽出方法を習得する。【セキュリティと情報モラル】ネットコミュニケーションについて学修する(§ 5-STEP2のLesson5)。	教科書2の「数値分析Ⅱ」「データベース」Step2 p48～p61を読んでおく。教科書1のp283～p287を読んでおく。自身が使用しているネットコミュニケーションツールの特徴を調べておく。(90分)	§ 5情報モラル-STEP2-確認テスト7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§ 4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§ 4-STEP2のLesson1)。 § 5 セキュリティと情報モラルSection5の試験(STEP1,STEP2合同20問)を行います。	NESSの § 5情報モラル-STEP2-確認テスト1～7の問題を解く。教科書1のp178,p181,p186～p210を読んでおく。(90分)	NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§ 4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§ 4-STEP2のLesson2) SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§ 4-STEP2のLesson2)。	教科書1のp211～p234を読んでおく。(90分)	教科書1のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テスト4～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§ 4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§ 4-STEP3のLesson2)。 § 4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を行います。	NESSの § 4 Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。教科書1のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書1のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する試験と各回の学習状況により評価する。	

その他	0	なし
教科書		
1.イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラルOffice2016対応／ア出版 2.「情報の探索・分析」(情報活用力 抜粋版)／ア出版		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください(キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場)。これ以外の方法での購入(ネット通販など)は推奨しません。また、メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。なお、教科書1は紙ベース、教科書2は電子教科書です。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		情報処理(2組)				ナンバリング	1158
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。							
授業の概要							
本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。							
到達目標							
1. 課題解決のために必要な情報を探索できる。 2. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行い、それらを読み取ることによって情報の分析評価・整理ができる。 3. ワードプロソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なう情報のアウトプットができる。 4. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。 5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。							
授業の方法							
Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトによる操作やセキュリティと情報モラルに関する内容の理解については初回と試験時を除いて教科書会社が提供するeラーニングシステムにより各自が主体的に確認テスト問題を行う。							
ICT活用							
教科書に付属してアカウントを得られるeラーニングシステムを用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

eラーニングシステムにより確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【情報の探索】Web検索・インターネット情報の検証の方法を修得する。 【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの起動、画面構成を概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§2-STEP1のLesson1)。文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§2-STEP1のLesson2)	シラバスを読み、教科書1のp30～p35とp42～p47, p49～p50, p53～p58(授業では行わない)、教科書2の「情報検索」p9, p13～p15を読んでおく。(90分)。	教科書1のp51練習5を行う。タッチタイピングの練習を行う(90分)。
担当教員			
第2回	教科書が提供するWebサイト(NESS)への登録を行う。【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防技術についての知識を得る(§5-STEP1のLesson1)。	教科書1のp60～p67上半分とp250～p252を読んでおく。p80練習7の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～3の問題を解く。教科書1のp80練習7の可能な部分を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、均等割り付け、表の作成方法、ワードアートの挿入方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§5-STEP1のLesson1,2)。	教科書1のp67下半分～p75上半分とp253～p258を読み、p255練習25, p258練習26を行っておく。(90分)	教科書1のp80練習7を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～4の問題を解く。(90分)
担当教員			
第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、画像や図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する(§2-STEP2のLesson2)。 【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術を習得する。(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp75下半分～p91とp259～p262を読んでおく。p98練習8の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。教科書1のp98練習8の可能な部分を行う。(90分)
担当教員			

第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する(§2-STEP2のLesson2)。【情報の分析評価】《Excel》数値分析の概略を理解しExcelのファイル操作を習得する(§3-STEP1のLesson1)【セキュリティと情報モラル】cookie、パスワードの管理を習得する(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp92～p97, p100～p106とp263～p264,教科書2の「数値分析 I」Step1の(1)分析のポイントp18を読んでおく。(90分)	教科書1のp98練習8を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6, §3Excel-STEP2-同1～3, §5セキュ-STEP1-同5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報の分析評価】数値分析に必要な数値データについて理解する。《Excel》,データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。データの表示設定(文字・表示形式)(§3-STEP2のLesson1)を習得する。【セキュリティと情報モラル】ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺の知識を得る(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp107～p118の上とp265～p267を読んでおく。(90分)	NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第7回	【情報の分析評価】《Excel》データの表示設定(罫線の設定、行の高さ・列幅の変更)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。印刷手法(改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する(§3-STEP2のLesson2)。【セキュリティと情報モラル】著作権・知的財産権とはなにかについて知る(§5-STEP2のLesson1,2)。§2Word-Section2の試験(20問)を行います。	教科書1のp118～p129とp268～p270,教科書2の「数値分析 I」Step1の(2)数値データp19～p21を読んでおく。(90分)	教科書1のp122練習9を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト4～7, §5情報モラル-STEP2-確認テスト1～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】《Excel》数式の入力方法・コピー、合計の計算、相対参照と絶対参照の使い分け、よく使用する関数の利用法を習得する。(§3-STEP2のLesson3)。【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点について学修する(§5-STEP2のLesson2)。	教科書1のp130～p144とp271～p273を読んでおく。教科書2の「数値分析 I」Step2の(3)-2 p28～p29を読んでおく(90分)。	教科書1のp137練習12を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト5～7, §5情報モラル-STEP2-確認テスト2～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】《Excel》数学／三角関数、条件に応じて処理を変えるIF関数、ネストを習得する(§3-STEP2のLesson3)。数値分析に必要な関数の探し方を修得する。【セキュリティと情報モラル】個人情報の保護について学修する(§5-STEP2のLesson3,4)。	教科書1のp145～p152とp274～p275を読んでおく。教科書2の「数値分析 I」Step2の(3)-2 p28～p29を読んでおく(90分)	教科書1のp152練習16を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト2, §5情報モラル-STEP2-確認テスト4～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第10回	【情報の分析評価】《Excel》グラフの要素、縦棒グラフと円グラフの作成法レーダーチャートの作成、グラフの編集。複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する(§3-STEP3のLesson1,2)。	教科書1のp153～p176を読んでおく。(90分)	教科書1のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト1と3, §5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			

第11回	【情報の分析評価】Excelの機能を総合的に利用してデータを分析する方法を理解する。【セキュリティと情報モラル】ネットの危険性、ネチケツトについて学修する電子メール利用のマナーについて学修する。暗号化、インターネット利用のマナーについて学修する(§ 5-STEP2の Lesson4)。 § 3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を行います。	教科書1のp276～p282を読んでおく。教科書2の「数値分析Ⅱ」Step1 p36～p43を読んでおく。NESSの § 3-STEP2,STEP3確認テストを解く。(90分)	§ 5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【情報の分析評価】Excelのデータベース機能を理解し、データの並べ替え・抽出方法を習得する。【セキュリティと情報モラル】ネットコミュニケーションについて学修する(§ 5-STEP2のLesson5)。	教科書2の「数値分析Ⅱ」「データベース」Step2 p48～p61を読んでおく。教科書1のp283～p287を読んでおく。自身が使用しているネットコミュニケーションツールの特徴を調べておく。(90分)	§ 5情報モラル-STEP2-確認テスト7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§ 4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§ 4-STEP2のLesson1)。 § 5 セキュリティと情報モラルSection5の試験(STEP1,STEP2合同20問)を行います。	NESSの § 5情報モラル-STEP2-確認テスト1～7の問題を解く。教科書1のp178,p181,p186～p210を読んでおく。(90分)	NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§ 4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§ 4-STEP2のLesson2) SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§ 4-STEP2のLesson2)。	教科書1のp211～p234を読んでおく。(90分)	教科書1のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テスト4～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§ 4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§ 4-STEP3のLesson2)。 § 4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を行います。	NESSの § 4 Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。教科書1のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書1のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する試験と各回の学習状況により評価する。	

その他	0	なし
教科書		
1.イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラルOffice2016対応／ア出版 2.「情報の探索・分析」(情報活用力 抜粋版)／ア出版		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください(キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場)。これ以外の方法での購入(ネット通販など)は推奨しません。また、メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。なお、教科書1は紙ベース、教科書2は電子教科書です。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		生涯スポーツ I (2組)				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
授業の概要							
体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。							
到達目標							
①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。 ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。							
授業の方法							
チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。 ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
特になし、必要に応じて資料を配付		
履修条件・留意事項等		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		生涯スポーツ I (1組)				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
授業の概要							
体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。							
到達目標							
①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。 ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。							
授業の方法							
チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。 ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー一個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー一個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
特になし、必要に応じて資料を配付		
履修条件・留意事項等		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目が変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		総合教養講座				ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記、渡部 俊弘						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。文章作成能力、プレゼンテーション能力を修得するための科目である。また、ディプロマシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・共働することを可能とする国際性や共感力を備えて」いるに関連する科目である。							
授業の概要							
本科目では、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすか意識化することを目指す。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とする。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能性について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。							
到達目標							
・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsの取り組みの重要性を理解できること。 ・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。 ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。 ・Google Classroomの利用ができること。 ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。 ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。 ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。							
授業の方法							
パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。							
ICT活用							
図書館の利用方法など、一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた確認テストを行い、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか(渡部学長) これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。(教務課)	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	授業を受講するには② 履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。(教務課)	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第5回	遠隔授業の受講方法について 本学で遠隔授業のツールとして使用しているGoogle Classroomの使用方法について学び、遠隔授業を受講できるようになる。	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。(図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を 読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。 また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第9回	学生会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学生会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学生会に関する項目に目を通して置く。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		

第11回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第13回	えこりん村SDGs研修① (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりんむら村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。 年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	えこりん村SDGs研修② (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりんむら村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。 年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修③ (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりんむら村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。 年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト、および授業参加の積極性から総合的に判断する。	

その他	0	
教科書		
指定しない。		
参考文献		
渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年―恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット 渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会		
履修条件・留意事項等		
ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別紙で連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。13～15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English I (Speaking & Listening)				ナンバリング	1211
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Todd Robert Enslen						
授業の位置づけ							
北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)							
授業の概要							
この授業は、日常の基本的な場面における英語での口頭による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とする。授業では、日常場面に即したさまざまなトピックのコミュニケーション活動を提供し、教員と学生の間だけではなく学生同士でのインタラクションを通して、自信をもって英語でのやり取りができるようになることを目標とする。							
到達目標							
By the end of this course, the students will be able to: 1) take part in simple English conversations and discussions with both native and non-native speakers of English; 2) use new vocabulary and proper pronunciation to express themselves correctly in given situations; 3) confidently engage in discussions with both their teacher and other students.							
授業の方法							
There will be activities in class for students to use vocabulary, expressions, grammar and pronunciation from the lessons. It will enhance listening and speaking skills. This will be an active learning class.							
ICT活用							
This course comes with resources on the English Portal and the Practice English App. Students must access both to extend their leaning.							
実務経験のある教員の教育内容							

N/A			
課題に対するフィードバックの方法			
Teacher will give feedback by commenting on common errors related to vocabulary, pronunciation, grammar, conversation and listening.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Introduction to the course. Activity to get to know each other.	Familiarize yourself with the textbook. Read page iv to ix. (90 minutes)	Review the Welcome Unit (90 minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1, How's it going? Introduce yourself and others Talk about things in an office	Read Unit 1, and prepare to introduce yourself. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第3回	Unit 2, Who are they? Talk about friends and family Talk about where people live and work	Read Unit 2, and prepare to talk about friends and family. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第4回	Unit 3, What a beautiful home! Talk about things in the home	Read Lesson 1 of Unit 3, and prepare to describe your home. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			

第5回	Unit 3, What a beautiful home! Lesson 2, Describe your neighborhood	Read Lesson 2 of Unit 3, and prepare to describe your neighborhood. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第6回	Unit 4 Where are you now? Lesson 1, Ask about an event	Read Unit 4, and prepare to talk about an event. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第7回	Unit 4, Where are you now? Lesson 2, Make plans with someone	Read Unit 4, and prepare to make plans with someone. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第8回	Unit 5, Do I need an umbrella? Ask about prices Talk about weather	Read Unit 5, Prepare to ask about prices and talk about weather (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第9回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 1, Talk about music	Read Unit 6, Lesson 1, Prepare to talk about music (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第10回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 2, Talk about free-time activities	Read Unit 6, Lesson 2, Prepare to talk about free-time activities (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			

第11回	Unit 7, Are you ready to order? Talk about food Order in a restaurant	Read Unit 7, Prepare to talk about food (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第12回	Unit 8, Do you have a reservation? Talk about future plans Discuss goals	Read Unit 8, Prepare to answer questions about future plans. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第13回	Unit 9, Is everything OK? Talk about what you are doing Talk about daily activities	Read Unit 9, Prepare to talk about daily activities. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第14回	Unit 10, How was your weekend? Final Test	Read Unit 10, Prepare to talk about your weekend and past vacation. Review the previous chapters in preparation for the test. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第15回	Review the final test and wrap-up of the course	Check your answers from the quiz by reviewing each section in the textbook. (90 minutes)	After Class: Students should do a self-evaluation of how well they have learned the material covered in class. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	60	30% Unit Quizzes 30% Final Test	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	40	20% Homework Assignments 20% Participation in Class Discussions	

その他	0	該当なし
教科書		
StartUp - Book 1 / 2019 / Sharon Goldstein, Kimberly Russell, Daria Ruzicka, Jenni Currie Santamaria, and Kathleen Thompson / Pearson		
参考文献		
None		
履修条件・留意事項等		
This class will be conducted entirely in English.		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ことばと心理(外国語学習法入門)				ナンバリング	1200
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	沢谷 佑輔						
授業の位置づけ							
この講義は、ディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)」、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関連している。また、理論に基づいた外国語学習法を身につけることで、大学での外国語学習計画を設定することを目的とした科目で、英語の専門科目や中国語科目、その他の外国語科目の基礎となる科目である。							
授業の概要							
この授業は、外国語学習を本格的に始めるにあたり、認知心理学の視点から、効果的な外国語学習法を第二言語習得論の知見を通して学ぶことを目的とする。学生たちは高校までの英語学習を振り返り、本講義で学んだことを通して、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングそれぞれの技能についてどのように学習に取り組んでいくかを考え、大学での外国語学習の目標を設定することを最終目標とする。							
到達目標							
・第二言語習得論の知見をもとに、語彙学習や文法、そしてリスニング、リーディング、ライティングそれぞれの技能の効果的な学習法を考えることができる。 ・講義を通して学習した内容をもとに、大学での外国語学習計画を設定することができる。							
授業の方法							
基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。今までの英語学習の方法を振り返り、自分の不十分であった部分を考える。その上で理論に基づいた外国語学習方法を学んでいき、合計12回の授業後のレポートを通して、理解を深める。そして、最後にまとめとして、4年間の外国語学習計画を立てて、それについてのプレゼンテーションを行う。							
ICT活用							
WebアプリのPear Deckを用いて意見を出してもらいながら授業を進めていく。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

適宜、課題の形式に応じたフィードバックを講義やGoogle classroom等を通じて行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ・高校までの英語学習を評価し、改善が必要な点を考える。	シラバスを読み、教科書を準備する。(90分)	講義の復習をし、次回の授業の準備を行う。(90分)
担当教員			
第2回	「第二言語習得」から英語の学び方を考える。 ・世間一般で言われている英語(外国語)学習についての通説について、「第二言語習得理論」の観点から正しいか考える。	教科書の第1章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第3回	「第二言語」として目指す英語力とは？ ・英語が世界の共通語として地位を確立している時代に、どのように英語に向き合っていけばいいのか考える。	教科書の第2章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第4回	英語を学ぶモチベーションのメカニズム ・英語を学ぶモチベーションはどのように生まれ、どうすれば長期間に渡って維持できるのか考える。	教科書の第3章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第5回	英語学習のプリンスプル ・全ての英語(外国語)の学びの基盤となる「6つのプリンスプル(原則)」について学ぶ。	教科書の第4章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第6回	効果的なボキャブラリーの学び方について考える。 ・覚えるべき語彙の目安や効果的な語彙の学習方法を学ぶ。	教科書の第5章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第7回	効果的な文法の学び方について考える。 ・なぜ英文法を学ぶ必要があるのか、まだどのように学習すれば使える英文法を身につけることができるのかを学ぶ。	教科書の第6章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第8回	効果的なリスニングの学び方について考える。 ・インプットが頭の中でどのように処理されるかを学ぶ。 ・リスニングの効果的な学習方法を学ぶ。	教科書の第7章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第9回	効果的なリーディングの学び方について考える。 ・学習者のリーディングのプロセスについて学び、効果的な学習方法を考える。	教科書の第7章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第10回	効果的なスピーキングの学び方について考える。 ・スピーキングがなぜ困難なのか考え、効果的な学習方法について学ぶ。	教科書の第8章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第11回	効果的なライティングの学び方について考える。 ・ライティング力の重要性について学ぶ。 ・効果的なライティングの学習方法について学ぶ。	教科書の第9章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第12回	効果的な海外留学について考える。 ・英語(外国語)の4技能の能力が伸び、かつ学習者の満足・充実度が高くなる留学はどのようなものか学ぶ。	事前にどのような留学形態があるか調べ、留学をすることでどのような効果があるかを考えてくる。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第13回	スマホアプリやオンライン教材を用いた効果的な外国語学習について考える。 ・外国語学習に用いることができる、スマホアプリやオンライン教材にはどのようなものがあるか学ぶ。 ・アプリやオンライン教材をどのように用いると効果的かを考える。	外国語学習に用いることができるスマホアプリやオンライン教材にはどのようなものがあるか事前に調べておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。また、次の授業でのプレゼンテーションの準備を行う。(90分)
担当教員			
第14回	自分の大学での外国語学習計画についてのプレゼンテーションを行う。 ・1週目から13週目までの学習を基に今後の大学で外国語をどのように学ぶのかについてのプレゼンテーションを行う。	自分のプレゼンテーションのスライドや発表原稿を準備し、確認を行う。(90分)	他の学生の発表と自分の計画を照らし合わせ、足りない部分をまとめ、自分の計画の見直しを行う。(90分)
担当教員			
第15回	講義の振り返り ・1週目から14週目の内容を振り返る。	これまでの講義内容を振り返る。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業後の小レポート課題 60% (5×12) プレゼンテーション 40%	

その他	0	なし
教科書		
新多了著「英語の学び方」入門 (研究社, 2019)		
参考文献		
講義内で適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
講義には積極的に参加すること。また、課題の提出期限は厳守すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		フランス語 I				ナンバリング	3281
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Nicolas Jegonday						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「フランス語Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
この授業は、フランス語を初めて学ぶ学生を対象とし、フランス語の初歩を習得する。まずフランス語のアルファベット、母音字、子音字など発音の規則を習得し理解できるようになる。次に、フランス語の文法の基礎である、名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、動詞の活用や形容詞の位置、基本文型、否定文、疑問文などの習得を目指す。世界の広い範囲の国や地域で使用され、国連公用語であるフランス語の表現になれ親しみ、フランス語の簡単な会話ができることでフランス語を使う楽しさを体験する。							
到達目標							
1) フランス語で自己紹介ができる。 2) 簡単な日常会話ができる。 3) フランス語の単語を読めるようになる。 4) フランスやフランス語圏の文化に触れる。 5) 基礎的な文法を身につける							
授業の方法							
授業は参加型で行います。言葉は使いながら覚える。ほぼ毎回ペアーで練習してから、発表をする。比較的にゆっくり進みますが、復習は欠かせません。							
ICT活用							
なし。							
実務経験のある教員の教育内容							

札幌アリアンス・フランセーズ院長。フランスやフランス語圏の幅広い知識を有している。その経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業が始まる前に直接教員に聞く。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	アルファベットと自己紹介	0分	復習:180分
担当教員			
第2回	簡単な挨拶を習って、練習をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第3回	フランス語圏の国々を覚える。自分の言語力を伝える。 否定文。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第4回	疑問文を覚えて、相手に質問をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第5回	数字を覚えて自分の年齢を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第6回	フランスの地理を習って、大都市の位置と読み方を覚える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第7回	三人称を習って、同級生を紹介する。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第8回	動詞etre,avoir,habiter,parler。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第9回	好きなこと・苦手なことを伝える。動詞aimer,adorer,detester。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第10回	家族に関する表現を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第11回	家族についてはなす。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第12回	持ち物に関する表現を習って、鞆や財布の中身を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第13回	曜日、月、時間に関する表現を覚える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第14回	動詞vouloir,pouvoir. 出来ること、してみたいことを伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第15回	まとめと振り返り	復習:90分	復習:90分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題・参加度・出席態度を総合的に評価します。	

その他	0	
教科書		
場面で学ぶフランス語1[三訂版]高橋百代 著/ Nicolas JEGONDAY 著/ 林宏和 著/ Cédric YAHYAOUÏ 著 三修社 ISBN:978-4-384-22055-1 C1085		
参考文献		
特になし。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ロシア語 I				ナンバリング	3291
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 理奈						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力，世界と繋がるために地域社会を理解し，その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「ロシア語Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
この授業は，ヨーロッパ言語のなかでも英語とは多くの点で異なるロシア語を学び，言語の多様性を知ることが目的とする。ロシア語のアルファベットを書き，発音することから始め，簡単な文章を読み，辞書を用いて意味を理解できるようになる。まず，ロシア語の文字の形を理解し，個々の文字が示す音，および単語における発音の法則，イントネーションの規則を覚えて，文を音読できるように，アクセントと発音練習が中心になるが，基本文型を使って日常生活の基本的表現が言えるようになる。							
到達目標							
ロシア語の基礎的学習をふまえて，1. 基本的な単語や文を聞き取れる，2. 単純な文を読んで内容が分かる，3. 簡単な語句や文を使って初歩的な応答ができる，4. 簡単な文章を書ける							
授業の方法							
板書やパワーポイントを用いて講義形式で進める。 配布印刷物および視聴覚メディア（DVD，CDなど）の補足教材も活用し説明を行う。							
ICT活用							
該当なし。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う。
レポート課題は、提出後にコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ロシア語学習への導入	シラバスに目を通して、教科書p8-10「ロシア語ってどんなことば？」を読んでおく(90分)	授業で学習したロシアの言語や文化について復習しておく(90分)
担当教員			
第2回	アルファベット、単語の読み方	教科書p11-14のアルファベットと発音の特徴に目を通しておく(90分)	授業で学習したアルファベットの発音と単語の読み方を復習しておく(90分)
担当教員			
第3回	アルファベット、文字の書き方	教科書p15の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した文字の書き方を復習しておく(90分)
担当教員			
第4回	文字と発音、発音の規則(母音の弱化)	教科書p21の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した発音の規則を復習しておく(90分)
担当教員			

第5回	文字と発音, 発音の規則(子音の同化), 挨拶表現	教科書p16-17の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した発音の規則を復習しておく(90分)
担当教員			
第6回	第1課 簡単な平叙文「～は～です」, 疑問文「これは誰ですか」「これは何ですか」	教科書p18-19の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した単語と表現を復習しておく(90分)
担当教員			
第7回	第2課 簡単な否定文「～は～ではない」, 疑問文「～は～ですか」, 人称代名詞	教科書p22-23の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した単語と表現を復習しておく(90分)
担当教員			
第8回	名詞の性(男性・女性・中性名詞)	教科書p35の新出単語と説明に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第9回	名詞の複数形	教科書p47の新出単語と説明に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第10回	第3課 所有代名詞「私の, あなたの」など, 指示代名詞「この」	教科書p28-29の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第11回	第4課 形容詞「新しい, 古い」など	教科書p32－33の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第12回	第5課 動詞の第1変化「読む, 知る」など	教科書p40－41の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第13回	第6課 動詞の第2変化「話す, 見る」など	教科書p44－45の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第14回	授業まとめ, 練習問題	教科書p18－49練習問題の新出単語, p38－39「単語力アップ」「表現力アップ」に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第15回	達成度確認テスト, 解説	教科書p11－49で学習した単語, 表現, 文法事項を復習しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を確認し復習しておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する達成度確認テスト, 授業への参加態度, 出席態度, 授業内の課題、授業内レポートなど	

その他	0	
教科書		
「ニューエクスプレスプラスロシア語」黒田龍之助 著(白水社)		
参考文献		
辞書は,「パスポート初級露和辞典」米重文樹編/ウラジーミル・タヴリーノフ協力(白水社)を推奨する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語 I				ナンバリング	2241
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	董 子昂						
授業の位置づけ							
読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力高めるための科目である。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける。「総合中国語Ⅱ」と関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、1年次に徹底して取り組んだ中国語の発音(ピンイン)をマスターすることを引き続き継続する。これと同時に、中国語の初級レベルの基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面、生活に根差した場面で使う表現を習得できるようになる。中国語検定4級程度の実力を得ることを目指す。							
到達目標							
中国語の学習を継続的に進めていくための初級レベルの文法と表現を実践的に運用できる。							
授業の方法							
読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。履修者の理解度によって、講義の内容と授業の進捗状況を微調整する可能性がある。							
ICT活用							
Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①ガイダンス ②ウォーミングアップ(中国語の発音を復習する)	教科書のp.17~40をよく読み、中国語の発音・ピンインを復習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第2回	第2課 自己紹介——自分の所属や専攻に関する表現を学ぶ。 文法ポイント: 動詞述語文 指示代名詞“这・那・哪”、 場所代名詞“这儿・那儿・哪儿”、 疑問詞疑問文“谁・什么・哪儿・哪个”など	学習予定の部分(p.50~54)について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第3回	第2課 自己紹介——自分の所属や専攻に関する表現を活用し、ペアワークで会話練習をする。 第2課の「総合練習」(p.195)を完成する。	学習予定の部分(p.54~57)について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第4回	第3課 自己紹介——自分の家族や友達について紹介する。 文法ポイント:所在を表す動詞“在” 所有と存在を表す動詞“有” 名詞述語文など	学習予定の部分(p.58~62)について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			

第5回	第3課 自己紹介——自分の家族や友達について紹介するための表現を活用し、ペアワークで会話練習をする。 第3課の「総合練習」(p.197)を完成する。	学習予定の部分(p.62~65)について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第6回	第4課 お誘い 文法ポイント:前置詞“在” 連動文 日時に関する表現など	学習予定の部分(p.66~70)について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第7回	第4課 お誘い 友達と待ち合わせをする場面をイメージし、日時や場所などに関する表現を活用し、ペアワークで会話練習をする。 第4課の「総合練習」(p.199)を完成する。	学習予定の部分(p.70~73)について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第8回	第5課 レストラン——注文に関する表現を学ぶ。 文法ポイント: 選択疑問文 願望を表す助動詞“想” 意志を表す助動詞“要”など	学習予定の部分(p.74~78)について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第9回	第5課 レストラン レストランで食べ物や飲み物を注文する場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第5課の「総合練習」(p.201)を完成する。	学習予定の部分(p.78~81)について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第10回	第6課 買い物——買いたい物の特徴や価格に関する表現を学ぶ。 文法ポイント:形容詞述語文 比較に関する表現 数字など	学習予定の部分(p.82~86)について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			

第11回	第6課 買い物 デパートやコンビニで買い物をする場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第6課の「総合練習」(p.203)を完成する。	学習予定の部分 (p.86~89) について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第12回	第7課 道案内——目的地までの道を説明するための表現を学ぶ。 文法ポイント:前置詞“从・到・离” 結果補語 方位詞など	学習予定の部分 (p.90~94) について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第13回	第7課 道案内 道を尋ねる場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第7課の「総合練習」(p.205)を完成する。	学習予定の部分 (p.94~97) について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第14回	第8課 趣味に関する雑談——自分の趣味について相手に伝えるための表現を学ぶ。 文法ポイント: 助動詞“会” 動作の完了を表すアスペクト助詞“了” 様態補語 二重目的語をとる動詞など	学習予定の部分 (p.98~102) について、予習すること。(90分)	よく復習し、宿題を完成して次の授業の前日まで提出すること。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ、復習、テスト これまで学習した文法ポイントを復習した後、テストをする。	これまで学習した内容を復習し、テストの準備をすること。(90分)	テストの内容を確認すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習・復習・課題の完成度及授業への参加度(40%)＋宿題(30%)＋テスト(30%)	

その他	0	無断欠席は必ず減点要素になる。
教科書		
『中国語でコミュニケーション』沈国威監修 氷野善寛、小嶋美由紀他著 朝日出版社		
参考文献		
『基礎から発展までよくわかる中国語文法』、丸尾誠、アスク出版		
履修条件・留意事項等		
1回目の授業に必ず出席すること。出席と宿題を重視する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅲ				ナンバリング	3243
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡 慧君						
授業の位置づけ							
この授業は、中国語を媒介としたコミュニケーション能力を修得する科目である。世界と繋がるために、地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけ、グローバル社会の中で、世界の人々と共生、協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。「総合中国語Ⅲ」と関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、より高度な中国語表現能力取得を目指す。中国語には複雑な表現であっても表現する内容によって決まった文型がある。授業ではこれらの文型を学習しながら、練習問題を通して定着を目指す。また、それを確実に伝えられるような口頭練習を多用する。よって、2年間で学んだ学習項目を基礎に、より複雑な表現にふさわしい文型が使えるようになり、学んだ文型を実際のオーラル・コミュニケーションの場で使えるようにする。これらの表現に必要な文型や単語をマスターする。							
到達目標							
1.より多く単語や文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。 2.中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。 3.より自然な中国語を話せるようになる。							
授業の方法							
原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が各自で解説し、疑問、不明な点があれば授業時に解説する。スピーキング力をつけるために、グループ分けしてたくさんの会話を行い、一課ごとの課題に沿って中国語による発表を行う。リスニング力をつけるために、毎回教科書の内容をピックアップして、リスニングの確認を行う。中国語による表現力を確認するために、中国語で作文し、口述テストを行う。							
ICT活用							
公式ラインなどを使用して、スピーキング、ライティング練習課題を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

スピーキングやライティング課題を確認し、発音のアドバイスをし、さらに2課ごとに小テストを行い、小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス、初級文法復習	初級文法復習(合計の所要時間90分程度)	初級文法音読復習、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第2回	第1課 紹介	第1課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第1課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第3回	第1課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(合計の所要時間90分程度)	第1課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第4回	第2課 家庭	第2課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第2課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			

第5回	第2課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。 (合計の所要時間90分程度)	第2課付属のCDの本文を聞き、 聞いた内容が理解できるように すること。(合計の所要時間90分 程度)
担当教員			
第6回	第3課 学校	第3課の単語と文法を予習する こと、付属のCDを聞き、読む練 習、内容の翻訳をすること。(合 計の所要時間90分程度)	第3課本文を音読し、付属のCD の単語を聞き、聞いた内容が理 解できるようにすること。(合計 の所要時間90分程度)
担当教員			
第7回	第3課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。 (合計の所要時間90分程度)	第3課付属のCDの本文を聞き、 聞いた内容が理解できるように すること。(合計の所要時間90分 程度)
担当教員			
第8回	第4課 興味	第4課の単語と文法を予習する こと、付属のCDを聞き、読む練 習、内容の翻訳をすること。(合 計の所要時間90分程度)	第4課本文を音読し、付属のCD の単語を聞き、聞いた内容が理 解できるようにすること。(合計 の所要時間90分程度)
担当教員			
第9回	第4課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。 (合計の所要時間90分程度)	第4課付属のCDの本文を聞き、 聞いた内容が理解できるように すること。(合計の所要時間90分 程度)
担当教員			
第10回	第5課 気候	第5課の単語と文法を予習する こと、付属のCDを聞き、読む練 習、内容の翻訳をすること。(合 計の所要時間90分程度)	第5課本文を音読し、付属のCD の単語を聞き、聞いた内容が理 解できるようにすること。(合計 の所要時間90分程度)
担当教員			

第11回	第5課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。 (合計の所要時間90分程度)	第5課付属のCDの本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第12回	第6課 交通	第6課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第6課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第13回	第6課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。 (合計の所要時間90分程度)	第6課付属のCDの本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第14回	第1～6課 総復習と口述テスト	口述テスト作文を作成(合計の所要時間90分程度)	総復習、授業内でのリスニング練習に備え、付属のCD(第1～6課)を聞くこと。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第15回	まとめおよび期末テスト	総復習(第1～6課)(合計の所要時間90分程度)	期末試験の見直し(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期テストは実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30%、口述テスト20%、期末テスト50%	

その他	0	
教科書		
『中文Jump!』人見 豊/李研 金星堂 2019年2月 ISBN978-4-7647-0678-1		
参考文献		
授業内で適宜指示		
履修条件・留意事項等		
授業中に行う解説をスムーズに進行するため、文法、語彙、本文などの予習をしてくること。無断欠席は必ず減点要素とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語コミュニケーション				ナンバリング	2245
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	邢 玉芝						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。1年次科目「中国語入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、2年次科目「中国語リスニング」などと連動する科目である。							
授業の概要							
この授業は、中国語の日常会話を修得する。中国の文化・習慣・伝統・流行・中国人の考え方などにも触れ、実生活に即した会話の練習を通して、自分の考えや伝えたいことを話せる能力を身につける。各課のポイントに基づく練習問題をこなすことで、基礎を固め応用力を養う。総合中国語Ⅰ、総合中国語Ⅱの授業に続き、中国語のレベルアップを図る。また、中国語で発想する感覚を身に付け、より踏み込んだレベルの生活会話の習得を目指す。							
到達目標							
正確で自然な発音、中級レベルの語彙および文法を身に付ける。 聞く、話すトレーニングによって、使える中国語を身につけ、中国人とのコミュニケーションが円滑にできる。 言語と同時に中国文化・中国事情も随所に触れるので日中双方文化に対する相互理解も深まる。							
授業の方法							
テキスト中心に1回の授業で1課を進む。①教員と学習者、あるいは学習者同士がキャッチボールをするように会話しながら学んでいく。②学習のポイントの基本文型を学んだ後、練習問題で知識を定着させる。③リスニングと口頭発表で学習成果を確認する。							
ICT活用							
Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を解かせて、受講生の理解度を確認する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返還する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス。授業の進み方、評価の基準などを説明する。一人ずつの発音チェックを行う。中国の特徴としての声調を正確に発音することを心掛けるように指導する。	中国語で自己紹介を含む2分間のスピーチを準備すること。(90分)	課題を与え、音源を確認したうえで正確に発音練習する。(90分)
担当教員			
第2回	第1回の課題の発表と発音指導。 第3課 国籍と職業 1. 人称代名詞 2. 動詞“是”「～は…である」 3. 疑問詞疑問文(1) 4. 副詞の位置 5. 省略疑問文	発表するための準備。 第3課の予習、リスニング問題を解き、口頭発表の原稿作成(90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	第4課 持ち物と特徴の説明 1. 指示代名詞 2. 助詞“的”「～の…」 3. 疑問詞疑問文(2) 4. 形容詞述語文 5. 反復疑問文 6. 主述述語文	第4課の予習、リスニング問題を解き、口頭発表の原稿作成(90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			
第4回	第5課 施設と行為 1. 動詞“在”「～は…にいる／ある」 2. 前置詞“在”「～で…する」 4. 時刻と時間の言い方、尋ね方 5. 前置詞“从～到”「～から～まで」	第5課の予習、リスニング問題を解き、口頭発表の原稿作成(90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			

第5回	第6課 ふるさとと家族 1. 量詞 2. 方位詞 3. 存在を表す動詞“有”「～に…がいる／ある」 4. 所有を表す動詞“有”「～は…を持っている」 5. 形容詞が名詞の修飾語になるとき 6. 数を尋ねる疑問詞“几”と“多少”	第6課の予習、リスニング問題を解き、口頭発表の原稿作成 (90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	第7課 趣味と特技 1. 助動詞“会”“能”“可以”「～することができる」 2. 理由の尋ね方と答え方 3. 様態補語 4. 二重目的語 5. 動詞の重ね型	第7課の予習、リスニング問題を解き、口頭発表の原稿作成 (90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			
第7回	第8課 レジャーと交通手段 1. 助動詞“想”「～したい」 2. 比較 3. 選択疑問文 4. 語気助詞“吧”	第8課の予習、リスニング問題を解き、口頭発表の原稿作成 (90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分) (90分)
担当教員			
第8回	第9課 休日の過ごし方、体の不調 1. 完了を表す“了” 2. 変化を表す“了” 3. 時量補語、動量補語、離合詞 4. “快要～了” “就要～了” 5. 禁止の表現 “別～” “不要～”「～しないでください」	第9課の予習、リスニング問題を解き、口頭発表の原稿作成 (90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	第10課 移動を表現する 1. 完了を表す“了” 2. 変化を表す“了” 3. 時量補語、動量補語、離合詞 4. “快要～了” “就要～了” 5. 禁止の表現 “別～” “不要～”「～しないでください」	第10課の予習、リスニング問題を解き、口頭発表の原稿作成 (90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			
第10回	第11課 行動による結果 1. 進行を表す副詞“在”「～している」 2. 結果補語 3. 可能補語 (2) 4. “有点儿”と“一点儿”	第11課の予習、リスニング問題を解き、口頭発表の原稿作成 (90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			

第11回	第12課 経験したことを詳しく説明する 1. 経験を表すアスペクト助詞“过”「～したことがある」 2. “是～的”構文 3. 金額の言い方	第12課の予習、リスニング問題を解き、口頭発表の原稿作成(90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	第3～6課の単語とセンテンスの日中対訳トレーニング	学習予定部分(p.78～85)90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			
第13回	第7～9課の単語とセンテンスの日中対訳トレーニング	学習予定部分(p.86～91)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	第10～12課の単語とセンテンスの日中対訳トレーニング	学習予定部分(p.92～97)(90分)	次週の小テストに備え、学習内容を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	3分間スピーチと答弁	3分間スピーチと答弁の準備。(90分)	先生のアドバイスを参考にスピーチを修正し文章にする。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(50%)＋小テスト(50%)	

その他	0	
教科書		
『インタラクティブ中国語』山本範子 邢玉芝 森若裕子著 朝日出版社		
参考文献		
授業内で適宜指示する。		
履修条件・留意事項等		
初級中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(1年生後期)のいずれの科目を履修したほうがよい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅰ				ナンバリング	1231
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	魯 諄						
授業の位置づけ							
本科目はディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」と関係がある科目である。学部共通科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、「中国語入門Ⅱ」とリンクしている。後期の「中国語入門Ⅲ」は、この科目の延長である。							
授業の概要							
この授業は、中国語修得の中で、外国人が最も苦勞と言われる中国語の発音をマスターする(ローマ字を見て発音でき、発音を聞いてローマ字に直せるようになる)。これは中国語の基礎をマスターすることに等しい。この授業では、日本人の習慣を考慮した学習法により、効率的に中国語の発音をマスターすることを目指す。また、それと同時に、基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。							
到達目標							
中国語の学習を継続的に進めていくための、基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法を理解し、正確に発音することができる。							
授業の方法							
読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは6回目の授業から毎回行う。 なお、受講者の学習の状況に合わせて、各回の講義内容を微調整する場合がある。							
ICT活用							
Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション、中国語とは？ 予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 発音①、四声、声調符号の付け方を中心にマスターする。	学習予定の部分(p.6-10)について、予習すること。(90分)	オリエンテーションの内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	発音② 単母音及び複母音を中心にマスターする。 単母音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。 単母音をマスターした後に、2重母音、3重母音の複母音について訓練する。	学習予定の部分(p.12-14)について、予習すること。(90分)	母音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、ドリルを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第3回	発音③ 子音(1)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。また、中国語の有気音と無気音の違いについては、徹底して発音訓練を行う。	学習予定の部分(p.16~18)について、予習すること。(90分)	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出。(90分)
担当教員			
第4回	発音④ 子音(2)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。	学習予定の部分(p.20~22)について、予習すること。(90分)	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出。(90分)
担当教員			

第5回	判断を表す“是”を使った表現をマスターする。 S+“是”+O S+“不是”+O	学習予定部分(p.24～27)について、予習すること。(90分)	p.29の振り返りシートを完成すること。p.25の本文をよく読み、録音し、次回授業前日までに提出。(90分)
担当教員			
第6回	自分の名前や同級生の名前を中国語で表現し、相手の名前を尋ねる表現をマスターする。 S(人)+“叫”+フルネーム S(人)+“姓”+苗字	授業の前に学習予定の部分(p.30～33)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.35の振り返りシートを完成すること。p.31の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第7回	動詞を用いた最も基本的な文型と選択疑問文をマスターする。	学習予定の部分(p.36～39)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.41の振り返りシートを完成すること。p.37の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第8回	I、二つ以上の動詞からなる文——連動文 II、希望や願望を表す助動詞“想”	学習予定の部分(p.42～45)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.47の振り返りシートを完成すること。p.43の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第9回	“有”を用いた文型をマスターする。 S+“有”+O S+“没有”+O “在”と“有”を用いた文型の相違を確認し、マスターする。 S+“在”+場所 場所+“有”+S	学習予定の部分(p.48～51)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.53の振り返りシートを完成すること。p.49の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第10回	I、年月日、曜日の言い方 II、助動詞“得”と“要”	学習予定の部分(p.54～57)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.59の振り返りシートを完成すること。p.55の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			

第11回	形容詞述語文と時刻の言い方をマスターする。	学習予定の部分(p.60～63)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.65の振り返りシートを完成すること。p.61の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第12回	中国語のお金の言い方と量詞について学ぶ。	学習予定の部分(p.66～69)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.71の振り返りシートを完成すること。p.67の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第13回	I、年齢の言い方と尋ね方 II、前置詞“在”	学習予定の部分(p.72～75)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.77の振り返りシートを完成すること。p.73の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第14回	I、文末助詞の“了” II、動詞の重ね(AA A“一”A “一下”)	学習予定部分(p.78～81)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.83の振り返りシートを完成すること。p.79の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第15回	小テストを行う	学習した部分(第1課～14課)を復習すること。(60分)	小テストの内容を確認すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験を行いません。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋単語テスト(20%)＋小テスト(50%)	

その他	0	
教科書		
『いま始めよう！アクティブラーニング——初級中国語——』陳淑梅 張国璐著 朝日出版社		
参考文献		
『実用現代漢語語法』、劉月華など著、北京、商務印書館。		
履修条件・留意事項等		
1回目の授業に必ず出席すること。出席と宿題を重視する。無断欠席は必ず減点要素になる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅱ				ナンバリング	1232
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	魯 諄						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際政治や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える」とことと特に関係がある科目である。学部共通科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、「中国語入門Ⅰ」とリンクしている。							
授業の概要							
この授業は、入門レベルの文法、基本会話と表現に関する基礎的事項を総合的に学習することによって、入門レベルの中国語の外観を把握し、特に、文法事項や発音のポイントを把握できるようにする。中国語の発音の学習で重要なことは、発音符号であるピンインの読み方とその表記の方法を理解することであるため、発音表記であるピンインとその表記の関係を理解することに力を入れ、その関係を把握できるようにする。							
到達目標							
中国語の発音と基本文型を理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。							
授業の方法							
読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。							
ICT活用							
Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次の授業で微調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる。	中国語に関する知識を復習する。 (90分)	理解度確認テストを完成する。(90分)
担当教員			
第2回	発音 プロローグA 声調、日本人にとって難しい発音 日本人にとって難しい中国語の発音が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	発音 プロローグB -n:-ng、そり舌音、iの特別な発音、iu 中国語の発音の中でも、特に注意を要すべきものについて理解できるようになる①。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第4回	発音 プロローグC 日本語にない子音の発音 日本語にない子音の発音について理解できるようになる②。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			

第5回	発音 プロローグD 書き換え規則、二重母音・三重母音、隠れるローマ字 中国語の発音の中でも、特に注意を要すべきものについて 理解できるようになる③。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	第1課 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文と“很” 3. “嗎”疑問文 4. “不” 5. “不”の変調 指示代名詞と形容詞述語文と“很”と“嗎”疑問文と“不”と“不”の変調が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第7回	第2課 1. 正反疑問文 2. 選択疑問文 3. “的”が省略できる場合 4. 動詞句+“的”→名詞句 正反疑問文と選択疑問文と“的”が省略できる場合と動詞句+“的”→名詞句親族名称が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	第3課 1. 親族名称 2. “両” 3. “有”と“没有” 4. 年齢の聞き方 5. “一”の変調 6. 21から99までの“十”の発音 親族名称と“両”と“有”と“没有”と年齢の聞き方と“一”の変調と21から99までの“十”の発音が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	第4課 1. 助動詞“想” 2. 日付と曜日 3. 動詞の重ね型 4. 前置詞“給” 5. 積極的な気持ちを表す“来” 助動詞“想”と日付と曜日と動詞の重ね型と前置詞“給”と積極的な気持ちを表す“来”が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第10回	第5課 1. 月 2. 時刻 月と時刻の言い方が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			

第11回	第6課 1. お金の言い方 2. 100以上の数 3. 数量補語 4. “児化” お金の言い方と100以上の数と数量補語と“児化”が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	第7課 1. 助動詞“在” 2. 助動詞“要” 3. 前置詞“離” 助動詞“在”“要”と前置詞“離”が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第13回	第8課 1. 助動詞“在” 2. 助動詞“能” 3. 二重目的語 4. “多一点兒” 助動詞“在”“能”と二重目的語と“多一点兒”が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	第9課 1. 助動詞“会” 2. 連動文 3. “別”“不要” 助動詞“可以”と連動文と“別”“不要”が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	第10課 1. 助動詞“可以” 2. 比較の言い方 助動詞“可以”と比較の言い方が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行いません。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習、復習、課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(70%)＋ペアワーク(30%)	

その他	0	
教科書		
『ともだち・朋友 スリム版①』 董燕・遠藤光暁著 朝日出版社		
参考文献		
授業中に適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。出席と宿題の完成度を重視する。無断欠席は必ず減点要素になる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		朝鮮語 I				ナンバリング	3271
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	崔 鉉鎮						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「朝鮮語Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
この授業は、朝鮮語を初めて学ぶ学生を対象とし、朝鮮語の初歩を習得する。ハングル文字表記を学び、その音韻体系と基本的な音韻規則を理解し、朝鮮語の基本文型を使って、簡単な挨拶表現や自己紹介をはじめ、初対面の人との出会いと交流場面での表現の習得を通して、韓国文化を学ぶとともに朝鮮語で話すことの楽しさを体験する。							
到達目標							
1. ハングル文字の読み書きができる。 2. 単語・文レベルにみられる発音変化規則を理解して適用できる。 3. 挨拶や自己紹介をはじめ、日常生活でよく使われる簡単な会話表現ができる。							
授業の方法							
パワーポイントと視聴覚資料などを活用しながら講義形式で進める。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時に解説を行う。質問や感想などは出席カードを通して随時受け付けて課題と同様、次回の授業に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	① ガイダンス(授業の流れ、履修上の留意事項、成績評価など)を行う。 ② ハングル文字の仕組み及び母音字①(単母音)について学ぶ。	韓国と韓国語について調べる(90分)。	学んだ文字を暗記する(90分)。
担当教員			
第2回	母音字②(二重母音)について学ぶ。	学習する文字(配布プリント)を予習する(90分)。	学んだ文字を暗記する(90分)。
担当教員			
第3回	子音字①(カ、サ、タ、ナ行に類似した子音)について学ぶ。	学習する文字(配布プリント)を予習する(90分)。	学んだ文字を暗記する(90分)。
担当教員			
第4回	子音字②(ハ、パ、マ、ラ、チャ行に類似した子音)について学ぶ。	学習する文字(配布プリント)を予習する(90分)。	学んだ文字を暗記する(90分)。
担当教員			

第5回	パッチム(日本語の「ン、ル、ッ」に類似)について学ぶ。	学習する文字(配布プリント)を予習する(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第6回	① 発音変化規則「連音化」を理解し、単語と文章に適用して読む。 ② 仮名のハングル表記法に基づいて日本の人名や地名などを書く。	p12「連音化」とp21「仮名のハングル表記」を予習する(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第7回	① 4課-1 主題・トピックを表す助詞について学ぶ。 ② 4課-2 丁寧表現「名詞＋です(か)」(ハムニダ体)について学習する。 ③「鼻音化」について学ぶ。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第8回	① 4課-3 自己紹介・ものの名前を言う時に使う表現について学ぶ。 ② 会話文と復習問題を用いて4課の内容をまとめる。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第9回	① 5課-1 文の主語を表す助詞について学ぶ。 ② 5課-2 丁寧表現「名詞＋です(か)」(ヘヨ体)について学習する。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第10回	① 5課-3 否定表現「名詞＋ではありません」について学ぶ。 ②「激音化」について学習する。 ③ 会話文と復習問題を用いて5課の内容をまとめる。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			

第11回	視聴覚資料を活用して「生きた韓国語」に触れる。これまで学んできた語彙や表現などの聞き取り練習を行うとともに韓国の文化についても知る。	4・5課の学習内容を復習する(120分)。	視聴覚資料に出てきた単語と表現の表記・発音を復習し、疑問に思った韓国の文化などがあれば調べる(60分)。
担当教員			
第12回	6課-1 漢数詞の数え方と漢数詞に付く助数詞(年、月、日など)について学ぶ。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第13回	① 6課-2 時間・場所を表す助詞および位置の表現について学ぶ。 ② 6課-3 存在を表す表現について学習する。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第14回	① 二つ文字パッチムの発音と連音化について学習する。 ② 会話文と復習問題を用いて6課の内容をまとめる。	p37の内容を予習する(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第15回	今学期の学習内容を総まとめした後、到達度確認テストを行う。	理解が十分にできていない内容を中心に復習する(90分)。	今学期の学習内容を総復習する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(10%)、課題・小テスト(30%)、学期末試験(60%)で総合的に評価する。	

その他	0	
教科書		
『三訂版・韓国語の世界へ 入門編 -コツコツ学び、カジュアルに話そう- 』／李潤玉・酒匂康裕・須賀井義教・睦宗均・山田恭子 著／朝日出版社		
参考文献		
必要に応じて紹介する。		
履修条件・留意事項等		
1～5回目(教科書の1-3課に相当)は教科書を基に作成したオリジナル資料を使って授業を進める。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語 I				ナンバリング	1251
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部 仁美						
授業の位置づけ							
日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅱ・Ⅱ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。							
到達目標							
日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。 1) 読解を通して、文型表現を読み取るストラテジーを学ぶことができる。 2) 読んで学んだことをもとに実際に作文を書くことができる。 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。 4) 日常会話やスピーチを聞いて、質問に答えることができる。							
授業の方法							
教科書、配布物などを活用しながら、授業を進める。 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。 小テストを実施する。							
ICT活用							
課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	文法復習① 助詞・動詞の活用と文型	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習④ 他動詞・自動詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L1 読み物 日本を代表する有名人①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第4回	L1 読み物 日本を代表する有名人②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第5回	L1 書く 私が尊敬する有名人 ・書き言葉の文体	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L2 読み物 メールと手紙②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第7回	L2 書く お礼の手紙	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L3 読み物 日本を楽しむ②	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L3 書く 私の好きな町	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第10回	L4 読み物 外国での経験②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第11回	L4 書く 座談会の記事	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L5 読み物 和食のすすめ②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第13回	L5 文型・表現②	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L6 読み物 日本社会への声②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L6 文型・表現②	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作文(5%)＊6回、小テスト(20%)＊3回、小テスト(話す・聞く) (10%)	

その他	0	出席率70%以上を評価対象とする。
教科書		
『4技能でひろがる中級日本語カルテット1』／安井 朱美ほか／The Japan Times 『4技能でひろがる中級日本語カルテット1 ワークブック』／安井 朱美ほか／The Japan Times		
参考文献		
適宜、紹介する。		
履修条件・留意事項等		
授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語Ⅱ				ナンバリング	1252
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	富田 麻知子						
授業の位置づけ							
日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅲ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
この授業は、「日本語Ⅰ」を併せて学び、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。外国人留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語を用いて対人関係が築けるようにするために、ここでは特に口頭表現力を伸ばすことを目的に、会話と聴解練習の教室活動が中心となる。受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法や語句・語法項目が定着しているか確認・復習しながら、中級レベルの日本語学習項目の定着をはかる。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。							
到達目標							
日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。 1) 読解を通して、文型表現を読みの方のストラテジーを学ぶことができる。 2) 読んで学んだことをもとに実際に作文を書くことができる。 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。 4) 日常会話やスピーチを聞いて、質問に答えることができる。							
授業の方法							
教科書、配布物などを活用しながら、授業を進める。 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。 小テストを実施する。							
ICT活用							
課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	文法復習② 助詞・動詞の活用と文型	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習⑤ 可能表現	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L1 文型・表現・「そうだ」「らしい」「ようだ」	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第4回	L2 読み物 メールと手紙①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第5回	L2 文型・表現・「敬語」	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L3 読み物 日本を楽しむ① 小テスト(L1・L2)	小テストの準備をしておくこと(60分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第7回	L3 文型・表現・「授受表現」	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L4 読み物 外国での経験①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	文型・表現・「受け身形」「使役形」「使役受け身形」	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第10回	L5 読み物 和食のすすめ① 小テスト(L3・L4)	小テストの準備をしておくこと(40分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第11回	L5 文型・表現①・「条件文」	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L5 書く 私のおすすめ料理	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第13回	L6 読み物 日本社会への声①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L6 文型・表現①・「助詞 は・が」	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L6 書く 投書文を書く 小テスト(L5・L6)	小テストの準備をしておくこと。(60分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作文(5%)＊6回、小テスト(20%)＊3回、小テスト(話す・聞く) (10%)	

その他	0	出席率70%以上を評価対象とする。
教科書		
『4技能でひろがる中級日本語カルテット1』／安井 朱美ほか／The Japan Times 『4技能でひろがる中級日本語カルテット1 ワークブック』／安井 朱美ほか／The Japan Times		
参考文献		
適宜、紹介する。		
履修条件・留意事項等		
授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語Ⅲ				ナンバリング	1253
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	傳法 智恵美						
授業の位置づけ							
日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
この授業は、「日本語Ⅰ・Ⅱ」と共に、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。外国人留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語を用いて対人関係が築けるようにするために、ここでは口頭表現力だけでなく文章表現能力を伸ばすことを目的に授業を進めていく。受講生の初中級レベルの学習項目定着を確認しつつ、中上級レベルの日本語表現文型や語法と多義語や抽象語彙を使って、敬意表現や公的なメール文が書けるようになり、日本語の多様な表現を理解する。							
到達目標							
日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。 1) 読解を通して、文型表現を読み取るストラテジーを学ぶことができる。 2) 読んで学んだことをもとに実際に作文を書くことができる。 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。 4) 日常会話やスピーチを聞いて、質問に答えることができる。							
授業の方法							
教科書、配布物などを活用しながら、授業を進める。 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。 小テストを実施する。							
ICT活用							
課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション、レベルチェック	初級文法の基礎知識を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習③ 瞬間動詞・継続動詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	文法復習⑥ 事実文	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第4回	L1 話す 新しい出会い	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第5回	L1 聞く アメリカ人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L2 話す 先生とのやりとり	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第7回	L2 聞く フランス人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L3 話す 友人との集まり	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L3 聞く イタリア人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第10回	L4 話す 困った時には	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第11回	L4 聞くドイツ人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L5 話す 週末の予定	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第13回	L5 聞く 韓国人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L6 聞く 中国人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L6 日本小テスト(話す・聞く)	小テストの準備をしておくこと。(60分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作文(5%)*6回、小テスト(20%)*3回、小テスト(話す・聞く)(10%)	

その他	0	出席率70%以上を評価対象とする。
教科書		
『4技能でひろがる中級日本語カルテット1』／安井 朱美ほか／The Japan Times 『4技能でひろがる中級日本語カルテット1 ワークブック』／安井 朱美ほか／The Japan Times		
参考文献		
適宜、紹介する。		
履修条件・留意事項等		
授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		アウトドア・ツーリズム研修				ナンバリング	1520
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー、世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる(思考・判断・表現)科目とする。							
授業の概要							
この授業は、集中講義と研修で北海道の観光産業におけるアウトドアスポーツ観光の開発とその観光プロモーションを考えていく。訪日外国人観光客の旅行目的は多様化しており、体験型テーマ旅行の提供が求められているが、北海道はスキー、スノーボードなど、冬季のスポーツを楽しむ場所としては海外でも知名度が高い。近年は、グリーンシーズンのアウトドア・スポーツはニセコ、富良野、キロロなどでのラフティングやカヌー、ハイキング、登山、ゴルフで外国人観光客誘致が活発化しているが、その英語・中国語のガイドやインストラクターが不足している。ここでは、近い将来、アウトドア観光の担い手となる二言語併用人材育成として、ニセコ等でのアウトドア・アクティビティのガイド体験を行う。							
到達目標							
・アウトドアスポーツの体験を通し、その魅力を把握する。 ・体験したアウトドアスポーツのなりえるターゲットについて考えることができるようになる。 ・新しいアウトドア体験プログラムのツアー開発や、そのプロモーションができるようになる。 ・チームビルディングを理解し、実践をとおして、チームで働く力を身につける。また、その過程で、自らが主体性を持って前に進める力や、考え抜く力も身につけていく。 ・問いや仮説を立てて現状を分析し、課題解決案を考える力を身につける。 ・PBL学習 (Project/Problem Based Learning)について理解する。							
授業の方法							
「事前研修」「実施研修」「事後研修」の3つの方式で行う。 *「実施研修」や「事後研修」は、PBL (Project/Problem Based Learning)方式で行う。そして、編成するチームでグループワークを重ね、新しいアウトドアスポーツの開発やプロモーション方法を考え、プレゼンテーションを行う。							
ICT活用							
オリエンテーション時に説明する。							
実務経験のある教員の教育内容							

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション →授業の進め方など	北海道で行われているアウトドアスポーツについて調べておくこと(90分)	全世界で行われているアウトドアスポーツについて調べておくこと(90分)
担当教員			
第2回	[集中講義・事前研修] →地域の事前調査と研修内容の準備Ⅰ	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	[集中講義・事前研修] →地域の事前調査と研修内容の準備Ⅱ	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	[実施研修] →アウトドア体験1-1／実施と調査 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	[実施研修] →アウトドア体験1-2／実施と調査 * 詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	[実施研修] →アウトドア体験2-1／実施と調査 * 詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第7回	[実施研修] →アウトドア体験2-2／実施と調査 * 詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	[実施研修] →アウトドア体験3-1／実施と調査 * 詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	[実施研修] →アウトドア体験3-2／実施と調査 * 詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第10回	[実施研修] →地域調査1-1(あるもの探し／受講生全員での調査) * 詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			

第11回	[実施研修] →地域調査1－2(あるもの探し／受講生全員での調査) *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	[実施研修] →地域調査2－1(あるもの探し／編成するチームでの調査) *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	[実施研修] →地域調査2－2(あるもの探し／編成するチームでの調査) *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	[集中講義・事後研修] アウトドアスポーツの開発とプロモーションⅠ →グループワーク 編成したチームでグループワークを行い、実施研修の内容をもとに、新しいアウトドア体験プログラムのツアー開発と、プロモーションの方法を考える。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	[集中講義・事後研修] アウトドアスポーツの開発とプロモーションⅡ →プレゼンテーションと講評 グループワークで検討した、新しいアウトドア体験プログラムのツアー開発とプロモーションについて、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションにおいては、外部からゲスト(予定)をお招きし、オンライン又は対面で参加をいただき講評をいただく。 →最終レポートの提出 これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分) これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前研修、実施研修、事後研修[アウトドアスポーツの開発とプロモーション]を総合的に判断して(詳細はオリエンテーション時に報告する) 最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認。レポートの内容については、最終授業に伝える)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
留意事項等 学外での研修や宿泊時に、他者へ迷惑をかける行為などを行った場合には、受講の取り消しとする場合がある。 コロナ禍であるため、授業内容や日程については、間際で変更される場合もある。状況については、入学時のオリエンテーションや、学内の掲示板等を活用し報告していく。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		世界と北海道				ナンバリング	1500/3504
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えていく。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。(思考・判断・表現)							
授業の概要							
本科目は、私たちが暮らす北海道と世界がどのようにつながっているかの理解を深め、北海道に関する知識を深めていく科目である。北海道の主力産業である第一次産業の産品は今や世界の高級ブランドとして消費され、北海道には世界中から観光客が訪れるようになった。また外国人居住者も増加しており、北海道のグローバル化の現状について、学生は様々な分野の統計や詳細データを収集し、その資料を多角的な視点で分析し、データの裏付けから現状と課題を映し出す手法を身につける。							
到達目標							
1.北海道と世界のつながりを、観光の視点から述べるができるようになる。 2.前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身につける。 3.PBL学習 (Project/Problem Based Learning)について論じることができるようになる。 4.北海道について知るための統計やデータの収集方法を身につける。 5.データの初歩的な分析方法を身につける。 6.北海道全体と地域の問題を述べるができるようになる。 7.地元学を理解し、課題解決の手法を身につける。							
授業の方法							
パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。							
ICT活用							
資料提示や情報収集のために、スマートフォンなどを使用する場合がある。本学が推奨するものや、zoomなども取り入れていく。							
実務経験のある教員の教育内容							

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グループクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる	世界の人口、世界各国の人口、 日本の人口、日本各都道府県 の人口、北海道の人口、北海道 各市町村の人口を調べておくこ と(90分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員			
第2回	北海道の戦略と取り組みⅠ →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画についての 把握(統計やデータの収集)	「北海道総合開発計画」につい て調べておくこと(90分)*詳しく は前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員			
第3回	北海道の戦略と取り組みⅡ →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画と、北海道 グローバル戦略についての把握(統計やデータの収集)	「北海道グローバル戦略」指定 箇所について調べておくこと(90 分)*詳しくは前の授業内で伝 えます	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員			
第4回	北海道の戦略と取り組みⅢ →北海道グローバル戦略についての把握(統計やデータ の収集)	「北海道グローバル戦略」指定 箇所について調べておくこと(90 分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員			

第5回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅰ →地域資源カードの作成法	「地元学」について調べておくこと(90分) * 詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅱ →モノ(自然)についての考察 * 情報の質と数を高めていく	北海道内のモノ(自然)について調べておくこと(90分) * 詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第7回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅲ →モノ(他)についての考察 * 情報の質と数を高めていく	北海道内のモノ(他)について調べておくこと(90分) * 詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅳ →コト(イベント)についての考察 * 情報の質と数を高めていく	北海道内のコト(イベント)について調べておくこと(90分) * 詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅴ →コト(他)についての考察 * 情報の質と数を高めていく	北海道内のコト(他)について調べておくこと(90分) * 詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第10回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅵ →ヒトについての考察 * 情報の質と数を高めていく	北海道内のヒトについて調べておくこと(90分) * 詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第11回	地域資源カードを使った課題解決の検討Ⅰ →北海道各地域の、強みや弱みを考えていく * 目的、目標、手段の違いを明確にする * 情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	SWOT分析について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	地域資源カードを使った戦略立案Ⅱ →情報発信手段について考えていく * 目的、目標、手段の違いを明確にする * 情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	考えられる情報発信手段について調べ事前提出すること(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第13回	地域資源カードを使った戦略立案Ⅲ →恵庭市についての考察 * 目的、目標、手段の違いを明確にする * 情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	恵庭市の取り組みについて調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第14回	地域資源カードを使った戦略立案Ⅳ →恵庭市周辺地域の考察 * 目的、目標、手段の違いを明確にする * 情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	恵庭市周辺の市町村の取り組みについて調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第15回	これまでの講義の振り返りと最終レポート →チーム編成をして、これまでの振り返りのためのディスカッションと発表を行う →最終レポート提出	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	準備学習の状況、授業態度、授業意欲、グループディスカッション、各授業内でのレポート、プレゼンテーション、事後学習の状況 最終レポート(これまでの授業の理解度を確認。レポートのテーマについては、最終授業日に伝える)	

その他	0	
教科書		
教科書はなし。講義資料等については各回で随時配布。		
参考文献		
授業ごとに紹介していく。		
履修条件・留意事項等		
授業は、グループワークを中心に構成しているため、遅刻は原則欠席扱いとする。ただし、本学の規定に沿った理由で遅刻となる場合は、用紙などを添えて提出すれば出席とする。詳細はオリエンテーション時に報告する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		北海道の食文化				ナンバリング	2530
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 俊弘、藤井 駿吾、松田 祐						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」こととも関係がある。							
授業の概要							
この授業は、北海道の先住民であるアイヌ民族の生活からの食文化について。シャケなどを例に挙げ、生活様式と食文化の関連をアイヌ文化の観点から講述する。一方、明治2年、蝦夷地は北海道に改名され、開拓とともに日本各地から人々が移住してきた。そのような歴史的背景と地域特性から食生活が多様化し、ジンギスカンや石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼きなどの郷土料理が生まれた。その観点からも北海道の食文化を講述する。							
到達目標							
学園創設の時代背景を踏まえ、いま再び不安定になっている世界情勢に鑑み、食文化(食べること)が各所に与える影響の大きさやその質については、VUCAの時代を生きる上で理解する必要がある。本授業では「食べること／食文化」を多角的に観察し、国際的かつ歴史的に、食が文化の創造に不可欠な要素である点や、それらの要素が現代社会の基盤を形成している点について学習する。履修者は絶えず変化を求められる時代を生きていく中において、社会構造を再考するために必要な素養と基礎知識の獲得を目標とする。							
授業の方法							
教員作成パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いて講義形式で展開し、社会の実務者による講義も行う。また、学生間での対話(ディスカッション)を含むチーム学習も行う。							
ICT活用							
授業内容に関連するホームページや動画を用いる。課題などのやり取りにGoogle classroomを使用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションなどのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	〈導入〉「北海道の食文化を理解するために」 北海道の食文化や、食べることは総合的な学問体系の基礎につながると考える。人々の食生活はその国や地域の歴史や地形、気候等を基礎として決定づけられており、例えばそこに派生する「農業」を理解するためには、食文化が総合的な学びであることへの理解が必須である。その他、民族や食生活、産業や海外文化等の要素と関連づけて講述する。	シラバスをよく読み、自らの問題意識を整理すること。また、「北海道の食文化」の自分なりのイメージを持っておくこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	〈序論〉「ガイダンス／その他の学びへと派生する(北海道の)食」 ・ガイダンス(授業に臨む時の姿勢やコツ、ノートの取り方、授業の進め方) ・「(北海道の)食や食べること×その他の総合的な学問体系」の関係性 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第3回	「北海道の食文化の誕生と郷土料理」 ・北海道の食文化と郷土料理(ジンギスカン、石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼き等) ・北海道の食文化の歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第4回	「北海道の食を支える人と産業」 ・北海道の食を支える主な食産業、歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		

第5回	「北海道の成り立ちと食生活(仮)(恵庭市郷土資料館 長町 章弘 学芸員)」 北海道及び恵庭市の歴史について展示等を通して学びに繋げる取組を行っている社会教育施設の現場に従事する実務者による実践的な講義を通して、北海道の歴史や民族について考察する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第6回	「地理と食産地の関係」 ・実は暗記科目ではない「地理」 ・「地理」から見つめてみる世界の食産地 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第7回	「チェコ共和国の歴史と食文化～ビールに焦点をあてて～(仮)(在札幌チェコ共和国名誉領事館 野村 真弘 名誉領事)」 今年3月に開催された、野球の祭典・WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)において、日本代表チームと対戦した際に注目されたチェコ共和国について、実際に食料生産の現場で北海道の食産業を支えてきた実務者による実践的な講義を通して知り、歴史や食文化やビールについて考察する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第8回	〈中間まとめ〉「〈食べること〉がなぜ重要なのか？」 ・食糧自給率の仕組み ・学園のルーツである「食」と多様性を認める時代の「食」など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第9回	「北海道の食文化とアイヌ～漫画『ゴールデンカムイ』から～」 アイヌ民族と食との関係についての理解深化を目指し、アイヌ関連資料を用いて講述する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第10回	「北海道内各地の食文化を比較する(道北・道南・道東・道央など)」／「食を支える栄養学」 ・道内各地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		

第11回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関東・東北地方など)」／「食を支える栄養学」 ・関東・東北地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第12回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関西・九州・四国地方など)」／「食を支える栄養学」 ・関西・九州・四国地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第13回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(ヨーロッパ編)」 ・イタリア:スローフード(Citta Slow)の考え方 ・フランス:食の都パリ、国が食を大事にする精神性 ・スペイン:食を柱とした地域の活性化の成功例 ・鶴岡新太郎とフランス料理(料理法百たい(1)、料理法百たいに学ぶ) など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第14回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(アジア編)」 ・中国、韓国:日中韓の食事様式について	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な栄養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第15回	〈まとめ〉「食糧難の時代 2050年に備えて」 ・人口増大のピークにむかう地球(総人口90億人へ) ・世界情勢と食糧危機 ・国際学部生として大切なこと など	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な栄養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢やレポートなどを中心に総合的に評価する。	

その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		
「食の歴史」(ジャック・アタリ著、プレジデント社)、「ゴールデンカムイ」シリーズ(野田サトル著、集英社)。その他は授業中に適宜提示する。		
履修条件・留意事項等		
本授業は国際教養学科および国際コミュニケーション学科2年次の選択科目であるが履修することが望ましい。		
備考欄		
ゲストスピーカー(実務者)の講義内容、講義日程は変更となる場合がある。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Reading				ナンバリング	2604
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						
授業の位置づけ							
この科目は、北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけることに関連する。							
授業の概要							
この授業は、さまざまな学術的なトピックの英文テキストにおける読解力を身に付けることを目的とする。授業では、心理学、社会学、政治学などさまざまな分野のアカデミックな題材のテキストを読むための読解ストラテジーを身に付け、題材の主題や概要、詳細を把握できるようになることを最終目標とする。							
到達目標							
Read English texts in various fields such as psychology, sociology, political science, etc., using reading comprehension strategies to grasp the subject, outline, and details of the subject matter.							
授業の方法							
This is a lecture class where students will listen to the teacher’s instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.							
ICT活用							
This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).							
実務経験のある教員の教育内容							

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	In this class, students will learn how to proceed with the class, assignments, and evaluation.	Register for the LMS; read the syllabus, peruse the textbook, generate questions (90 minutes).	Reflect on the orientation discussion, review notes, send a greeting message to the LMS. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of health science.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of psychology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第4回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of linguistics.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第5回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Lessons 1-3.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, students will develop skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of zoology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第7回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of social psychology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this class, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the field of art.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Units 4-6.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第10回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of sociology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第11回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the field of political science.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Lessons 7 and 8.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第13回	In this lesson, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of economics	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this class, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of neuroscience.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第15回	In this class, students will review what they have learned in this class and take an in-class exam.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Reflect on one's performance during the course. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	No such test	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes 50 In-class exam 50	

その他	0	Not applicable
教科書		
READING SKILLS FOR COLLEGE 1, Elizabeth Bottcher, Pearson		
参考文献		
Will be handed out in class		
履修条件・留意事項等		
Not applicable		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Writing I				ナンバリング	1601
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	沢谷 佑輔						
授業の位置づけ							
この講義は、国際教養学科の全てのディプロマポリシーと関連する科目である。本講義では、パラグラフ・ライティングについての知識を習得し、さまざまなジャンルのライティングをする基礎力を身につけることを目的とする。Academic English Writing II の基礎となる講義である。							
授業の概要							
この授業は、英語パラグラフ・ライティングの書き方についての知識を習得することを目的とする。授業では、Topic sentence、Supporting sentences、Concluding sentenceといった基本的なパラグラフの構成方法を学び、さまざまジャンルの効果的なパラグラフが書けること、そして最終的にはお互いのパラグラフを評価し合う(Peer Review) ことができることを目標とする。							
到達目標							
・英語パラグラフ・ライティングの構成方法を理解することができる。 ・さまざまなジャンルのパラグラフの構成方法について理解し、効果的なパラグラフを書くことができる。 ・相手が書いたパラグラフを読んで、改善点を指摘するなど評価することができる。							
授業の方法							
基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。講義内で課されるライティング課題に取り組みながら、英語のパラグラフの構成方法を身につけるとともに、ある程度まとまった文章を書くために必要な技法を身につける。また、学生同士の相互評価(Peer review)を通して、読み手意識をもって文章を書けるようにする。							
ICT活用							
WebアプリのPear DeckやKahoot!などを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

それぞれのライティング課題において、Google classroomなどを介してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ・ライティングにおける目的と読み手意識の重要性について学ぶ。 ・自己紹介のパラグラフを作成する(ライティング課題①)。	シラバスをよく読み、教科書を準備する。(20分)	教科書のChapter 1を参照し、次の授業への準備を行う。(90分)
担当教員			
第2回	Chapter 1 Describing People ① ・Pre-writingの手法としての質問、ノートテイキングの仕方について学ぶ。 ・パラグラフの構成について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第3回	Chapter 1 Describing People ② ・パラグラフのフォーマットについて学ぶ。 ・物事を描写するために必要な語彙について学ぶ。 ・Andとorを用いたセンテンス・コンバイニングについて学ぶ。 ・描写のパラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題②)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第4回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ① ・Pre-writingの手法としてのClusteringの仕方について学ぶ。 ・Listing-Order Paragraphの構成方法について学ぶ。 ・Topic sentenceの書き方について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第5回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ② •Supporting sentencesの書き方について学ぶ。 •Listing order transition signalsについて学ぶ。 •ライティングをする上で重要なUnityについて学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第6回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ③ •Concluding sentenceの書き方について学ぶ。 •Listing-Orderのパラグラフを書く準備をする。(ライティング課題③-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第7回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ④ •Peer reviewの仕方について学ぶ。 •実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 •Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題③-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第8回	Chapter 1とChapter 2のまとめを行う。	Chapter 1とChapter 2の復習を行う。(90分)	教科書のChapter 3を参照し、次の授業への準備を行う。(90分)
担当教員			
第9回	Chapter 3 Giving Instructions ① •Pre-writingの手法としてのListingの仕方について学ぶ。 •"How-To"パラグラフの構成方法について学ぶ。 •Time orderとListing orderのtransition signalsについて学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第10回	Chapter 3 Giving Instructions ② •Pre-writingで作成したリストからアウトラインを作成する方法について学ぶ。 •Capitalization、コンマの使用の注意点について学ぶ。 •"How-To"パラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題④-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第11回	Chapter 3 Giving Instructions ③ ・実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題④-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第12回	Chapter 4 Describing with Space Order ① ・Space orderの構成方法について学ぶ。 ・Topic sentenceを構成するtopicとcontrolling ideaについて学び、効果的なTopic sentenceの書き方を学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第13回	Chapter 4 Describing with Space Order ② ・具体的な詳細(Specific details)を加えたSupporting sentencesの書き方について学ぶ。 ・センテンス・コンバイニング(pp.131-132)に取り組む。 ・Spacing orderを用いた描写のパラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題⑤-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第14回	Chapter 4 Describing with Space Order ③ ・実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題⑤-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第15回	Chapter 3とChapter 4のまとめを行う。	Chapter 3とChapter 4の復習を行う。(90分)	講義全体の振り返りを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	ライティング課題 60% 授業内試験 40%	

その他	0	特になし。
教科書		
Ann Hogue Longman Academic Writing Series 2, Paragraphs, Third Edition, Pearson		
参考文献		
講義内で適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
授業には真剣に取り組む、課題の締め切りは厳守すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Integrated Academic English I				ナンバリング	3606
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Richardson Peter						
授業の位置づけ							
This course focuses on developing the four skills of students specifically for the purpose of improving their grasp of academic English. By the end of the course, students should be able to read academic articles, understand the main points in academic lectures, and be able to discuss academic topics.							
授業の概要							
この授業は、1年生から学習してきたアカデミック英語科目のまとめと位置付けられ、英語で行われる講義を聴いて、その内容を理解するために必要な講義の構造の理解や、ノート・テイキングの方法を身に付けることを第一目標とする。さらにはその講義から得た情報を口頭で伝えたり、要約を作成できるようになることを最終目標とする。							
到達目標							
アカデミックな英語をテーマに、講義を聞いてノート・テイキングや、配布資料を読んだり、ディスカッションをしたりしながら、英語だけのアカデミックな環境で効果的に運用できるようになることを目標とする。							
授業の方法							
Comprehending academic texts, vocabulary building, group discussions, academic writing activities, and peer editing will be the main components of this course.							
ICT活用							
The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.							
実務経験のある教員の教育内容							

none

課題に対するフィードバックの方法

Answers to tests will be given after the tests have been completed and graded tests will be shown to the students along with individual and class feedback.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースのテーマと目標を理解し、シラバスの主要な要素について知る。グループ活動を通して、重要なトピックや授業方法を理解する。	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	「地球と火星の違い」を読んだ後、そのテーマに関する質問をグループで話し合ったり、指示を聞いて図を完成させる練習をする。インタビューを聞くための準備として、文脈の中の語彙を調べたり、聞き取り方を考えたりして、準備をしておき、聞き取りの際には、それぞれの主旨をまとめる練習を行う。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	自分の国の天然記念物に関する情報をグループに分かれて準備し、クラスで発表することで、文章を書く力と聞く力を養う。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第4回	地球に関する講義を聞いて、要点を聞き取ることを考え、ノートをアウトラインとして整理する方法を学ぶ。文脈から語彙を推測し、裏付けとなる内容を聞き取る	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第5回	リスニングとスピーキングの総合的なスキルである、会話の中で話し手に適切に対応する方法を学ぶ。インタビューを聞き、相手と一緒にインタビュアーの回答を練習し、自分なりの適切な回答を考えていくことで、このスキルを身につける。また、会話の中で自分が聞いたことをリテリングすることにも焦点をあてる。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	火山の緊急対策について、交代でアドバイスをすることで、アイデアを共有する練習をする。読書、実践的な課題、インタビュー、グループやクラスでのディスカッションなどを通して、特定の理論を裏付ける証拠を集めて共有するという考え方をさらに発展させる。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第7回	3種類の火山についての講義を聞き、メモを取る。重要な情報だけをメモする方法を習得し、内容を聞く前に予測する方法を身につけることで、ノート・テイキングのスキルを高める。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第8回	前半の復習と中間テストを行う。	Prepare by studying the target vocabulary and texts from the first half of the course. 90分	Reflect on the test and writing assignment, try to identify your weaknesses and work on addressing them. 90分
担当教員			
第9回	地球の水について考える。いくつかの論題に対して、自分の考えを書き、共有する。地球の水に関する文章を読み、重要語句を身につける。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第10回	水へのアクセスについて、異なる国の人々の話を聞くことで、生の声を理解する力を養う。話されていることにつながるグラフの読み方や、意見の要旨を理解する方法を学ぶ。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第11回	学んだことを実践的に活かせる場面を考え、書く・話す練習をする。また、水をテーマにしたことわざや慣用語について学ぶ。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	地球の海について調べ、海について感じたことや経験を話すことで、書く力や話す力を養う。また、自分の好きな海でのアクティビティーについて聞き、相手の好き嫌いの仕方を学ぶ。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第13回	ダイビングやサーフィンの話題について創造的に考え、相手と共有することで、文章を書く力や話す力を養う。また、自分の状況に合わせてトピックを自分のものにする練習をすることで、これらのスキルをさらに伸ばす。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	地球の海に関する講義を聞きながら、ノートテイキングの練習を行う。講師から配布された資料を参考にしながら、signal wordsやphraseを聞き取る力を養い、理解度を高める。	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	講義の振り返りを行う。また、確認のための授業内試験を行う。 定期試験:実施しない	Prepare by studying the target vocabulary and texts from the first half of the course. 90分	Consolidate the course content. 90分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Participation: 20%; midterm assessments: 40%; final assessments: 40%	

その他	0	
教科書		
Academic Encounters, 2nd Edition: The Natural World 1, Listening and Speaking by Yoneko Kanaoka. Publisher: Cambridge University Press. ISBN: 978-1-316-99565-5.		
参考文献		
大修館書店; Taishukan's Genius English - Japanese Dictionary, 第5 edition		
履修条件・留意事項等		
none		
備考欄		
none		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		開発援助論				ナンバリング	2726
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉田 勉幸、吉田 勉幸						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考 や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現) と特に関連の深い科目である。							
授業の概要							
この授業は、世界の多様性と共生・協働を理解するために、国際協力や開発援助と呼ばれている分野を中心に、そこで活動する国家、国際機関、NGO、企業などの役割や相互関係を学習する。国際協力をより立体的に理解するために、(1)背景としての貧困や紛争などの南北格差の現実(2)開発の手段としての政府ODAや国連のイニシアチブ(3)NGOのネットワークによるボランティア活動の展開、の3点を軸に国際協力のアクターと活動がもつ可能性と限界を、理論と事例の双方から包括的に検討する。また、多様な地域の現場の問題や活動などをとりあげ、日本のNGOや国内ボランティアも取り上げる。							
到達目標							
この授業では、以下に掲げる項目への行動変革を目標とする。 ・開発途上国が抱える基本的な課題を理解、分析し、論理的に説明することができる。 ・国際社会の一員として、グローバルイシュー(貧困、環境破壊等)の議論に参加できる。 ・将来における自身のキャリア形成において、「社会貢献」「国際協力」「開発援助」の要素を高め、何らかの行動が できる。(例 SNSでの支援の呼びかけや、国際機関の職員や国際ボランティア「JICAボランティア」を目指す等)							
授業の方法							
授業で取り上げるテーマについて事前に調べ、予習すること。授業後、授業の内容を整理し、自分の考えも交えて内容をまとめる。授業内容を理解できたのか、授業後レポートの作成を求め、評価する。条件が整えば、JICA北海道(札幌)が実施するプログラムの参加や、その施設利用も検討している。							
ICT活用							
PC、タブレット等を使用し、スライド、動画を多く使用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内容の理解を確認するために、授業中にミニレポートの作成を求めることがある。各種レポート課題を評価し、コメントを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	開発援助の魅力 ～「行けば分かる。行けば変わる」～ 開発援助に関わる人々を概説し、その魅力に迫る。なぜ海外なのか？なぜ援助なのか？も交えてプレゼンテーションする。 初回では、授業計画を調整するため、出席者の意見、考えを積極的に求める。	なぜ、この授業に出席するのか？その目的意識を明確するため、事前に課題・問題を整理すること。また可能であれば、自分の将来のキャリア形成におけるこの授業の位置づけを明確にする。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第2回	開発援助の概要とSDGs 開発途上国やグローバル・サウスを理解した上で、開発援助の基礎を解説する。 現在の潮流「SDGs」も交えて、適切な援助について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第3回	国際機関・政府の国際支援 世界銀行、国連等の国際機関を取り上げ、そのあり方、取り組みについて理解する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第4回	JICAの概要と取り組み 独立行政法人国際協力機構(JICA)の概要を紹介し、その取り組みについて学ぶ。 可能であれば、JICAからゲストスピーカーを招待する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第5回	NPO/NGOの意義と活動 国際的なNGOや日本国内のNPO/NGO等の活動を取り上げ、幾つかのNGOの存在と活動について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第6回	プライベートセクターにおける社会貢献活動 北海道内の企業を含む、民間企業等の国際支援について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第7回	環境問題 ～人類の発展と自然環境の保全とは両立できるのであるか？～ 二酸化炭素の増加やゴミ問題、水質汚染、生物多様性の減少等、私たちは多くの問題に直面している。この授業では自然環境の破壊及び自然災害に苦しむ人々について理解する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第8回	発途上国の病気と医療事情 医療資源の乏しい開発途上国では、日々多くの人々が病に倒れる。日本では耳慣れない感染症や風土病等、開発途上国における特有の病気について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第9回	貧困問題と先進国からの技術移転 世界中に存在する経済格差、所得格差について鳥瞰し、先進国とは何か？開発途上国とは何か？改めて問い直す。また、幾つかの事例を概説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第10回	ボランティア ～ボランティア体験から得られるベネフィットとは何か？～ 海外におけるボランティア活動や東日本大震災でのボランティア活動など、各種ボランティア活動を「仕事」と対比した上で理解する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第11回	あなたが、開発途上国に行くとしたら？ ～資料収集と安全管理～ アフリカ諸国を始めとする開発途上国は、住み慣れた先進国と環境が大きく異なる。 この授業は、事前の情報収集と渡航準備について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第12回	途上国支援におけるマーケティング戦略とフェアトレード支援を行う組織では、活動の維持と充実を図るための様々なファウンディングが欠かせない。幾つかの組織におけるマーケティング戦略・コミュニケーション戦略と、「フェアトレード」について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第13回	IT技術の躍進 デジタル端末の急速な進化と、SNSの拡大によって、開発途上国の社会と、それを支える援助は、大きく変化している。この授業では、幾つか事例を挙げ概説し、IT技術との関係を学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第14回	身近な開発援助 ～「あなたに出来ることは、必ずある」～ これまで学んできた内容をまとめ、自分なりの「身近な開発援助」について、学生達が自由に意見を述べる授業とする。	これまでの授業内容をまとめ、最終レポートに備える。(120分)	まとめた内容を吟味し、再考する。(60分)
担当教員			
第15回	開発援助と未来 これまで学んできた内容をまとめ、自分なりの「開発援助の未来」について、学生達が自由に意見を述べる授業とする。また、今後のキャリアプランについて意見交換する。	最終レポートの作成(60分)	最終レポートの内容を見直し、最終レポートを完成させる。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	課題提出状況・ミニレポートテスト	

その他	10	授業参加の積極性
教科書		
新聞等		
参考文献		
大学生のためのレポート・論文術/小笠原 喜康/ 講談社 その他、授業中に適宜提示する。		
履修条件・留意事項等		
日々、新聞を読むことが望ましい。 レポート課題における「盗用」は厳しくチェックする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際教養入門				ナンバリング	1700
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
この科目は、「国際教養科目」の導入科目として、社会科学や地域研究のアプローチについての概略と基礎的理解を深めるための科目である。北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、国際教養を学び培っていくにあたり、今後の学びの全体を俯瞰し学習の見取り図を提供する科目である。具体的には、特に国際教養学科の国際教養科目で扱う社会科学の各分野や各地域論、各国研究の内容を一通り紹介しつつ、それらを学ぶ意義や研究の目的や面白さなどについて、本格的な社会科学や地域研究が初めての学生に講義するものである。この講義により、学生はこれからの国際教養学科での学びをイメージしやすくなり、興味・関心の幅が広がることを目的としている。							
到達目標							
学生が、「国際教養科目」の政治、経済、社会、地域研究などの基本的な考え方や発想の仕方を理解し、4年間で勉強していく社会科学や地域研究の基礎的な考え方について理解し、各科目により入りやすい基礎的な知識や教養を身につけることを到達目標とする。							
授業の方法							
印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。 授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。 授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。							
ICT活用							
関連する国家や国際機関、NGOなどのホームページ、動画等。							
実務経験のある教員の教育内容							

適宜、他の専任教員の中から講義のそれぞれの回の内容に関連する具体的な実務経験がある教員をゲストスピーカーとして登壇させる。開発協力の実務でアジア諸国に駐在した経験のある教員や欧米の国際外交会議に多数の経験を持つ教員等が協力する。

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・導入～教養とは何か？ グローバル化に伴って、不確実性や不透明性を増し、先の見えない世界について、教養を身につけるとはということなのか。現代世界を理解するのに不可欠な社会科学と世界の地域的多様性を学ぶことの意義について考察する。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	・国際政治学概論 国際政治と国内政治の境目が無い時代、「政治」とは何か「政治」を理解するとはどういうことなのか、伝統的な政治学の思想から、現代の国際関係論までを俯瞰する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・国際経済学概論 市場化し経済化する世界において、経済を理解する基礎は重要である。古典的な経済思想から、グローバル経済を分析する視点まで、経済学の基礎を学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	・国際社会学概論 トランスナショナル化しボーダーレス化する社会と個人。移動やディアスポラが常態化する世界で、社会と人間を理解するとはどのようなことか。社会学の潮流から、現代社会の諸問題まで、現代社会学のアプローチの基礎を学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	・開発援助概論 SDGsの視点から、世界の諸問題と解決へのアプローチについて、具体的な事例を交えながら、その概略について学習する。ハードからソフトへ。援助から自立へ。開発援助と国際協力の新しい潮流についても考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・地球環境概論 気候変動が人類の命運を左右するとも言われる時代、環境問題は安全保障問題であり、これからの社会経済構造を考える基底ともなる環境問題の現状と課題について、その概略を学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	・レジーム論・ガバナンス論概論 グローバルから地域のレベルから、統治の制度と実態を考えるレジームやガバナンスの考え方はますます重要となっている。国際機関、国際法から地方自治まで、ルールとガバナンスの現状と課題を学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	・情報社会概論 情報技術の革新とメディアの発達、20世紀に世界のあり方を大きく変えた。テレビ、新聞、ラジオなどのオールド・メディアからSNSなどの新しいメディアまで、情報とメディアをめぐる社会のあり方について学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・東アジア地域概論 日本とその周辺地域は、世界経済においてもっともダイナミックな地域を形成している。東アジアの歴史的交流から、現代の国際政治の問題まで、私たちの住む地域について概観する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第10回	・東南アジア地域概論 経済的に急成長を遂げ、世界の成長センターの一つである東南アジアは、文化的にも多様で豊かな地域である。日本との関わりも含めて、東南アジア地域のダイナミックな特徴について学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第11回	・アフリカ地域概論 世界経済の最後のフロンティアと言われているアフリカ。一括りにするにはあまりにも巨大で多様なアフリカ大陸の政治経済や社会文化について、その概略を学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・ヨーロッパ地域概論 EUの形成など、常に自己革新の歩みを止めないヨーロッパの強さとは何か。古代ローマから現代に至るまで、ヨーロッパを貫く伝統と革新について、さまざまな時代や外部世界との交流から考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第13回	・北米地域概論 現代世界において大きな影響を持つアメリカを中心に、北米の社会文化の形成過程と、政治や経済の構造的な特徴について明らかにしていく。わかっているつもりで意外と知らない北米地域の事情について学習していく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	・小論文による理解度と応用力の確認 現代世界を理解する社会科学の視点や、世界の諸地域の多様性を理解する教養を、自分なりにまとめ、さらにそこから自分なりに世界をどう見られるようになったのかを確認する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～世界を思考する教養 学生の皆さんから出された、いろいろな形の教養のまとめから、私たちが世界をどう見ているのか、どのように分析していけば良いのか、一緒に考え議論しながら授業のまとめを行う。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
授業中に適宜提示。		
履修条件・留意事項等		
本授業は国際教養学科1年次の必修科目である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際社会と医療				ナンバリング	1730
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	田邊 芳恵						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目 である。日本と諸外国の医療、介護、福祉に焦点をあて様々な社会的背景から各国の特徴や問題点を理解し、国際社会の未来に向けての理想的な医療、介護、福祉のあるべき姿を考察する。							
授業の概要							
本講義では医療に焦点をあて、様々な社会的背景を理解するうえでの知識の一つとする。医療は人間の健康の維持、回復、増進などを目的とする様々な活動であり、国際社会にとっても共通の認識が必要である。一方で人間が日常生活を営む場所の社会的背景によって医療に差が生じていることについても理解すべきである。また、日本を含めて世界における現代の医療は、福祉や介護との連続性および地域社会での包括ケア制度の確立や改善が急務とされている。このため医療および福祉や介護に携わる者は制度論だけではなく、幅広く社会を俯瞰する知識や倫理観を持ち備えることも必要である。全8回の講義を通して日本と諸外国の医療を考え、医療と密接に関わる福祉や介護についても日本との比較を行うことで、各国の特徴や問題点を理解し、国際社会の未来に向けての理想的な医療のあるべき姿を考察する。							
到達目標							
1. 現代日本の医療保険制度、介護保険制度、福祉制度の現状を理解し、その諸問題を説明することができる。 2. 日本と諸外国の医療保険制度、介護保険制度、福祉制度を比較し、その特徴や違いを説明することができる。							
授業の方法							
各種メディアを利用した座学・講義である。 講義中に提示する課題を実施し、講義毎に提出させる。							
ICT活用							
必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者は理学療法士としての臨床経験や臨床研究を基に本講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義毎に提出された課題について、必要に応じてフィードバックを行う。また、随時、質問を受けつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 日本の医療保険制度を理解する。	日本の医療保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第2回	諸外国の医療保険制度を学習し、日本との違いを理解する。	学生自身が興味を持っている国の医療保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第3回	日本の介護保険制度を理解する。	日本の介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第4回	諸外国の介護保険制度を学習し、日本との違いを理解する。	学生自身が興味を持っている国の介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		

第5回	日本における地域リハビリテーションの現状を理解する。	日本の地域リハビリテーションについて調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第6回	諸外国における地域リハビリテーションについて学習し、日本との違いを理解する。	学生自身が興味を持っている国の地域リハビリテーションについて調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第7回	医療保険制度や介護保険制度と密接に関係する福祉制度について日本と諸外国の現状を理解する。	日本および学生自身が興味を持っている国の福祉制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第8回	まとめ 日本および諸外国の医療保険制度、介護保険制度、福祉制度が未来の社会にどのような影響を与えるのかについて考察する。	本科目の1～7回の講義を総復習しておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	授業中の課題	
その他	20	授業への参加態度や発言の内容を評価する	
教科書			

特に指定しない

参考文献

特に指定しない

履修条件・留意事項等

授業には積極的に参加すること

備考欄

なし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際政治経済学				ナンバリング	3744
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融、渡部 淳						
授業の位置づけ							
国際関係論Ⅳは、近年、国際政治経済論と呼ばれる分野を扱う。 本科目は、「問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる。(思考・判断・表現)」及び「英語を実践的に運用できる知識とスキルを身につけている。(知識・技能)」に関連する科目である。							
授業の概要							
近代国際関係システムの形成史を詳述しながら、国民国家、ナショナリズムといった思想史的テーマの背景を学ぶことからスタートし、国際関係理論の枠組みを再確認した上で、具体的な国際政治の課題である通商政策、国際金融に加え、経済安全保障についても取り上げる。							
到達目標							
学生は、国際関係理論が構築されてきた背景の歴史を学び、これまで学んだ国際関係論の理論的枠組みを復習するとともに、いくつかの理論につき原著論文等に接することで理解を深め、国際政治現象を自ら分析し理解することができるようになることを到達目標とする。							
授業の方法							
PowerPointを用いた講義形式で行う。							
ICT活用							
インターネット上の資料や映像を適宜参照するとともに、Google Classroomを用いた双方向的コミュニケーションを保つ。							
実務経験のある教員の教育内容							

通商産業省(現・経済産業省)職員として、国連ベースでの条約交渉、WTOにおける通商交渉、OECDにおける先進国間の政策調整の経験を踏まえた講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中に課す小課題への講評及び期末課題への評価と講評を行うとともに、Google Classroomを通じ適宜補充する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1.Introduction	シラバスを読み、自らの関心を明確にしておくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第2回	2.近代国際システムの形成 (1) 国民国家の形成とWestphalia体制の成立 (2) 民主主義とナショナリズム	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	2.近代国際システムの形成 (3) 二つの世界大戦 (4) 第三世界の形成と新国際経済秩序	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第4回	2.近代国際システムの形成 (5) 言語とナショナリズム (6) インターネットと言語帝国主義	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第5回	3.国際政治理論の3潮流 (1) 古典的リアリズム (2) リベラリズム	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	3.国際政治理論の3潮流 (3) リアリズムの逆襲 (4) Post Modern Theories	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第7回	4.貿易 (1) 貿易理論の復習 (2) 貿易政策	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	4.貿易 (3) 貿易と主権国家 (4) 貿易と世界大戦	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	4.貿易 (5) 二度の世界大戦と保護貿易 (6) 戦後の自由貿易体制の成立	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第10回	4.貿易 (7) GATT体制の揺らぎとウルグアイ・ラウンド (8) WTO (9) 地域経済統合	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第11回	5.国際金融 (1) 中世欧州世界における国際金融と大航海時代 (2) Pax Britanicaと金本位制	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	5.国際金融 (3) 恐慌とPax Americana (4) Bretton Woods体制	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第13回	5.国際金融 (5) TriffinのTrilemmaとNixon Shock (6) 管理通貨制と政策協調	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	6.経済安全保障 (1) Globalizationの光と影 (2) 安全保障貿易 (3) 経済制裁 (4) 経済安全保障	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	7.まとめ	指定された文献を読んでくこと(90分)	指定された文献を読んでくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行なわない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性30%、小課題の提出状況30%、期末課題40%	

その他	0	
教科書		
野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟『国際政治経済学・入門』有斐閣アルマ		
参考文献		
飯田敬輔『国際政治経済』東京大学出版会 河野勝・竹中治堅編『アクセス 国際政治経済論』日本経済評論社 Phillip Coggan, Paper Promises, (『紙の約束』) 日本経済新聞出版社 2012 なお、高校世界史Bの教科書は必須である。大航海時代以降の欧州史を知らなければ国際経済の分析的理解など全く無理であることを理解してほしい。		
履修条件・留意事項等		
特に履修条件とはしていないが、経済学の基礎は講義内容の理解に必要であるので、適宜紹介するものを参照して自ら補ってほしい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際貿易投資論				ナンバリング	3728
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「世界と繋がるために国際社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、なぜ貿易や投資が生じるのか、貿易や投資を行うことの利益は何か、どのような貿易や投資のパターンが国家間で生じるのかについて、国際貿易論や国際投資論における理論・実証をバランスよく学ぶ。また、貿易の利益の上の対立についても学ぶ。伝統的な比較優位の概念を正しく理解し、貿易理論をもとに貿易利益や貿易損失をブnpauする上での対立、伝統的貿易理論から新貿易理論までの歴史的背景を理解することを目的とする。また、国際投資の間接投資と直接投資について、理論と事例から理解できることも目的である。							
到達目標							
日常報道される世界経済問題において、自ら関心を持った課題につき、通説的理解を認識しておく。その上で、自ら、統計資料等を用い問題の構造を分析し、そうした通説的理解の適否を論じることができ、それらが適切でないと判断する場合には的確な政策的処方箋をまとめ、国際的共通言語である国際経済学の枠組みにもとづいて発信できる能力を養う。							
授業の方法							
PowerPointを用いた講義形式で行う。受講者の積極的な議論参加を期待している。思いついた疑問をクラス内で共有し、双方向的な講義を目指す。							
ICT活用							
関連するインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。							
実務経験のある教員の教育内容							

通商産業省(現・経済産業省)職員として、国際経済及び国内における産業政策の形成過程と国際的な政策調整に関わった実務経験を踏まえた教育を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中での積極的なディスカッションを奨励するほか、講義期間中2度程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握しケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1: イントロダクション データで学ぶ日本の貿易と国際収支	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第2回	2: 貿易と市場1 貿易市場のメカニズム(需要・供給分析)	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	3: 貿易と市場2 貿易市場の資源配分(余剰分析)	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第4回	4: 貿易と市場3 貿易による利益と市場競争	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第5回	5: 日本の比較優位と貿易1 データで学ぶ国際分業と日本の比較優位	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	6: 日本の比較優位と貿易2 技術格差と貿易パターン	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第7回	7: 日本の比較優位と貿易3 生産要素の賦存量と貿易パターン	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	8: 新しい貿易理論と日本の貿易1 伝統的貿易理論と新しい貿易理論の違い	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	9: 新しい貿易理論と日本の貿易2 製品差別化・規模の経済と日本の自動車の貿易	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第10回	10: 新しい貿易理論と日本の貿易3 生産工程の細分化・規模の経済と機械製品の貿易	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第11回	11:新しい貿易理論と日本の貿易4 企業の生産性の違いと貿易	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	12:生産要素の国際間移動1 海外直接投資と日本の経済	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第13回	13:生産要素の国際間移動2 外国人労働の受け入れと日本の経済	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	14:開発協力と貿易	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	15:まとめ 21世紀の貿易と投資の様相	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	期末課題を作成すること
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席と講義参加の積極性30%、小課題提出状況30%、期末課題40%	

その他	0	
教科書		
現時点では特に指定しない。		
参考文献		
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2023) International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Pearson. 現時点では世界的な上旬となっている教科書を紹介しておくが、講義の中で適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		世界の感染症				ナンバリング	1728
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 浩一						
授業の位置づけ							
国際派日本人として知っておくべき世界の現状を示すテーマとして感染症を取り上げる。 ディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)」および「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」に関係する。							
授業の概要							
世界の感染症に着目し、国際社会の変革や社会的背景を理解する上での知識を習得する科目である。 かつて死因の半分以上を占めていた感染症であるが、人類は医学を急速に発展させて死者数を劇的に減少させ、今や感染症による死亡者の割合を約3割にまで減らすことに成功した。しかし、低所得国においては、未だ約6割の死因が感染症である。 この授業では、人類の歴史を感染症の視点から見つめ直し、時に国家の存亡や国家制度の変革をもたらしてきた感染症に、いかに我々の祖先たちが脅かされて来たのか、そして、現在に至るまで世界中で繰り広げられている感染症と人類の戦いについて解説する。また、ほとんど知られていないが、この戦いの中で日本人の果たして来た重要な役割について紹介する。							
到達目標							
・感染症の脅威による歴史への影響について理解し、説明出来る。 ・感染症と戦ってきた人物について、その内容を説明出来る。 ・我が国が果たした、感染症との闘いでの貢献を説明出来る。 ・耐性菌の問題を正しく理解し、これを説明出来る。							
授業の方法							
主にパワーポイントを利用した講義形式で実施する。 授業中に課題を出し、評価する。							
ICT活用							
課題への回答をWeb上で実施する回もある。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題への回答後、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ・出席および課題提出方法の説明 ・本講義で取り上げる感染症 ・江戸時代の感染症対策	Google Classroomの使い方に習熟しておくこと。 (90分)	Web上で課題提出や出席確認方法について、確実に理解しておく。講義で取り上げる感染症について、その概略を調べる。 (90分)
担当教員			
第2回	インフルエンザ ・慣れが引き起こした悲劇	インフルエンザウイルスについての基本的な知識をWeb等を利用して学習しておく。 (90分)	インフルエンザの流行防止に有効と思われる、日常の注意点についてまとめる。 (90分)
担当教員			
第3回	エボラ出血熱 ・最強の感染症	エボラウイルスについての基本的な知識をWeb等を利用して学習しておく。 (90分)	エボラ出血熱を始め、新興感染症と言われる感染症を予防するのに有効と思われる施策を考える。 (90分)
担当教員			
第4回	ペスト ・世界史を変えた感染症	ペスト菌についての基本的な知識をWeb等を利用して学習しておく。 (90分)	ペスト菌を運ぶネズミが都会で増加傾向にあることを踏まえ、その対応方法を考える。 (90分)
担当教員			

第5回	痘瘡 ・人類が勝利した唯一の感染症	痘瘡ウイルスについての基本的な知識をWeb等を利用して学習しておく。 (90分)	現在、WHOが封じ込めを計画している感染症について調べる。 (90分)
担当教員			
第6回	性感染症 ・コロンブスがもたらした風土病 ・がんを引き起こすセックス	梅毒スピロヘータおよび、ヒトパピローマウイルスについての基本的な知識をWeb等を利用して学習しておく。 (90分)	一般の人々が性感染症を予防する上で、有効な方法を考える。 (90分)
担当教員			
第7回	麻疹と風疹 ・世界の後進国、日本	風疹ウイルスおよび、麻疹ウイルスについての基本的な知識をWeb等を利用して学習しておく。 (90分)	日本の定期予防接種の種類と接種時期について調べる。 (90分)
担当教員			
第8回	寄生虫 ・人を操る寄生虫 ・奇跡の薬「イベルメクチン」	寄生虫による感染症についての基本的な知識をWeb等を利用して学習しておく。 (90分)	これまでの取り上げた感染症以外に、世界で猛威を振るう感染症について調べる。 (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題への回答を評価する。 授業態度が悪い場合は減点する。	
その他	0		
教科書			

なし。
参考文献
なし。
履修条件・留意事項等
授業中の態度が悪い場合は、退室を命じ、その回は欠席扱いとする。
備考欄
なし。

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		地球環境論				ナンバリング	2770
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」及び「グローバル化社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業では、深刻化する全世界共通の問題である、気候変動による温暖化、海面上昇、砂漠化などの地球環境の諸問題についてその概略を理解することを目的とする科目である。地球環境問題では、世界共通のものと、各国、各地域で深刻度が異なる多様な問題が存在しており、それらが私たちの日常生活とどのように結びつき、どのような影響を及ぼしているかを理解することを目指す。また、環境問題の解決や改善にどのような取り組みがなされ、人々が参画しているのかについても学ぶ。							
到達目標							
学生が、自ら設定した政策分野において、必要な理論的枠組みを取り出して、問題の構造を分析し、現状変更の政策提言をまとめられる能力を身につけることを到達目標とする。							
授業の方法							
PowerPointを用いた講義形式で行うが、必要に応じGoogle Classroomを用いて情報のコミュニケーションを行う。							
ICT活用							
条約事務局のサイトなどインターネット上の資料を適宜参照するとともに、Google Classroomによる補完的情報提供を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

通商産業省(現・経済産業省)職員として、条約交渉等の外交交渉の現場や国内における法令の作成や国会審議、あるいは政府部内における政策形成過程を踏まえた実践的事例を盛り込む。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中に小課題を課し、それに対する講評を行うとともに、適宜Google Classroomを用いた情報提供とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. Introduction 講義のアウトライン	シラバスを読み、自らの関心を明確にしておくこと(20分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(20分)
担当教員			
第2回	2. 気候変動問題 (1) 科学	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	2. 気候変動問題 (2) エネルギー	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第4回	2. 気候変動問題 (3) 政治過程	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第5回	3. 「前史」としてのオゾン層保護問題 (1) 科学と政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	3. 「前史」としてのオゾン層保護問題 (2) 市民と政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第7回	4. 地球環境問題を発見するアメリカの政治過程	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	5. 国際政治における認識論と社会構築主義 (1) 非国家アクター (2) 国際政治理論の現代的展開	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	6. その他の地球環境問題 (1) 漁業資源の保護と捕鯨 (2) 生態系の破壊と種の保存	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第10回	6. その他の地球環境問題 (3) 森林破壊と地域政治 (4) 海洋汚染と汚染物質の貿易規制	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第11回	6. その他の地球環境問題 (5)長期残留性有機化学物質の規制とEU	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	7. 技術と政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第13回	8. 国際組織とNGO	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	9. 地球環境問題における国内政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	10. まとめ	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義への参加の積極性40%、小課題20%、期末課題40%	

その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		
講義の中で適宜紹介していく。 米本昌平『地球環境問題とは何か』岩波新書 1994 Pamela Chasek, David Downie, Janel Welsh Brown, Global Environmental Politics, 5th ed. Routledge, 2020		
履修条件・留意事項等		
本講座では、地球環境問題を取り上げるが、科学的側面についての理解は前提であり、国際政治過程について扱う。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		比較政治学				ナンバリング	2742
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、各国の政治の多様性を理解するために、比較政治学の諸理論を活用して、具体的な欧米諸国の政治制度を理解し、説明できるようになることを到達目標とする。比較政治学は、政治的な現象や制度を比較することを通じて、政治の実態についての理解を深めることを目指す学問分野である。本講義では、まず、外国の政治について、その国の政治システム全体を捉えて、他の国と比較する方法を学ぶ。次に関心のある領域に限定して複数の国を比較する方法を学ぶ。講義では、まず、それぞれの国の政治の特徴を、その国の独自性に注目しながら取り上げる。その上で、様々な制度の連関性を意識して、そうした特徴を形成する要素を分析し、その際には比較政治学の諸理論も活用して、政治過程のメカニズムも検討する。							
到達目標							
学生が、現代における政治問題の構造を、歴史軸と地域軸というタテヨコに幅広く眺めることを通じ、総合的、客観的、論理的に理解し、比較の方法論を理解することと到達目標とする。							
授業の方法							
PowerPointを用いた講義形式で行うほか、受講生の関心によってはStudy Groupによる自主的な取り組みを歓迎する。							
ICT活用							
必要に応じインターネット上の資料を紹介するとともに、Google Classroomを用いた双方向対話を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

通商産業省(現・経済産業省)職員として、日本の政策形成過程に参加した経験と国際機関での他国との外交交渉実務を踏まえたケースを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中小課題を課し提出物に対する講評を行うとともに、Google Classroomを利用した情報提供とフィードバックを適宜行う他、期末課題の提出を求め評価とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. Introduction:何を比較するのか?	シラバスを読み、自らの関心を明確にしておくこと(20分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(20分)
担当教員			
第2回	2.比較政治学の系譜 (1)政治体制	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	2.比較政治学の系譜 (2)政治文化	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第4回	2.比較政治学の系譜 (3)政治社会	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第5回	2.比較政治学の系譜 (4) 政治発展	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	2.比較政治学の系譜 (5) 政治変動	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第7回	3.Case Study ① 議院内閣制と大統領制	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	3.Case Study ② 選挙制度と政党	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	4.リベラリズム	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第10回	5.日本における政権交代と政界再編	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第11回	6.代議制	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	7.権威主義と独裁	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第13回	8.デモクラシー (1)ナショナリズムとアイデンティティー	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	8.デモクラシー (2)Illiberal Democracy (3)デモクラシーの死と終焉	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	9.まとめー多様性と比較	指定された文献を読んでくこと(90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性50%、小課題の提出状況20%、期末課題30%	

その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		
粕谷祐子『比較政治学』ミネルヴァ書房 2014 久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治の考え方』有斐閣ストゥディア 2016 河野勝・岩崎正洋編『アクセス 比較政治学』日本経済評論社 2002 田中拓道『リベラルとは何か』中公新書 2020 池田信夫『戦後リベラルの終焉』PHP新書 2015 Steven Levitsky & Daniel Ziblatt, How Democracies Die, Penguin Random House, 2018		
履修条件・留意事項等		
本講座の対象は「比較」の方法論であるので、履修条件とはしないが、「比較」の対象となる政治現象についてはある程度知識が必要であることを覚悟し、それらの補完に努めてほしい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		EU研究				ナンバリング	3826
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「グローバル化の中で、世界の人々と共生・協力することを可能とする国際性や共感力を備えている(関心・意欲・態度)」、「世界と繋がるために国際社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、EUを形成している現代ヨーロッパの特徴について学ぶ。EUは現代世界で最も進んだ政治的共同体であり、EUが体現する国境のない政治、経済、社会、文化の空間は、人類の未来のあり方の重要な選択肢の一つである。環境や人権などの普遍的価値に基づこうとするEUと加盟諸国の取り組みについて学ぶとともに、ヨーロッパの生き残りをかけた政治、経済の戦略としてのEUから現代ヨーロッパの思想と実践について考察する。							
到達目標							
3年次配当科目として、学生自らが主体的に課題を設定し学ぶ方法論を身につけることを到達目標とする。「EU」という幅広いテーマの中で、自ら漠然と持つ「疑問」を「設問」として捉え直し、その「設問」に答えるためには何をどのように学べば良いか考えるActive Learningを、学生自ら、担当教員の指導の下に実践する。自ら設定した課題に役立つ文献を、教員の指導の下ではあるが学生自らが探し、自ら学び、それなりの自分としての解答を獲得し、それを他人との対話を通じてより深い理解へと進化させることができるようになることを目標とする。							
授業の方法							
まず、理論編として教科書を内容を受講者自らポイントにまとめる。自ら要点整理しないと、自ら設定する問題の解決法として応用できないからである。受講生は1章ずつ担当し、ポイントをプレゼンし、他の受講生からのコメントとディスカッションに応えた後、教員から指導を受ける。EU全体が構造的に外観できるようになったところで、受講生は自ら単独または複数で課題を設定し、その課題を分析してレポートにまとめる。教員は、受講生の関心に合わせて適宜ガイダンスを行う。							
ICT活用							
EU関連の法的枠組みやEU委員会の発表しているインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。							
実務経験のある教員の教育内容							

通商産業省(現・経済産業省)職員として、地球環境問題をはじめとする条約交渉やWTOを中心とする通商交渉、エネルギー政策や貿易保険といった政策分野において、パリやジュネーブにおける交渉経験を踏まえた講義と講評を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中での積極的なディスカッションを奨励するほか、講義期間中2度程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握しケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義のアウトライン Introduction: EUを学ぶ意義 教科書と参考文献の紹介	シラバスを読み、自らの問題意識を明確にしておくこと(90分)	講義の内容をノート等で復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	第1部 ヨーロッパ統合史 第1章 ヨーロッパとは何か 1. 近代ヨーロッパの成立 2. 戦間期欧州の政治 3. 第2次世界大戦 4. ローマ条約の成立	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	第1部 ヨーロッパ統合史 第2章 統合の停滞と再生	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	第1部 ヨーロッパ統合史 第3章 拡大と正統性の危機	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	第2部 EUの政治制度と政治過程 第4章 EUの全体像	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	第2部 EUの政治制度と政治過程 第5章 EUの諸機構	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第7回	第2部 EUの政治制度と政治過程 第6章 EUの政策過程	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	第3部 EUの政策 第7章 EUの経済政策	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	第3部 EUの政策 第8章 EUの社会・移民政策	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第10回	第3部 EUの政策 第9章 世界のなかのEU	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			

第11回	第3部 EUの政策 第10章 共通安全保障・防衛政策	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	第4部 EUのガバナンス 第11章 各国政治とEU	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	第4部 EUのガバナンス 第12章 デモクラシーと正統性	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	第5部 EUが直面する現代の問題 第13章 ウクライナ戦争の衝撃	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	第5部 EUが直面する現代の問題 第14章 ヨーロッパという夢と現実	指定された文献を読んでおくこと(90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席と授業参加の積極性30% 小課題提出状況30% 期末課題40%	

その他	0	
教科書		
池本大輔・板橋拓己・川嶋周一・佐藤俊輔『EU政治論－国境を超えた統治のゆくえ』有斐閣ストゥディア 2020		
参考文献		
E. H. Carr, (清水幾太郎訳)『歴史とは何か』岩波新書 1962 (2022 新刷) J. P. Sartore, (安堂信也訳)『ユダヤ人』岩波新書 1956 (2019新刷) 大木毅『独ソ戦 絶滅戦争の惨禍』岩波新書 2019 Antje Wiener, Thomas Diez, eds., (東野篤子訳)『ヨーロッパ統合の理論』勁草書房 2010 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』(増補版)名古屋大学出版会 2014 山本健『ヨーロッパ冷戦史』ちくま新書 2021 篠原孝『EUの農業交渉力』農山漁村文化協会 2000 遠藤乾・鈴木一人 編『EUの規制力』日本評論社2012 遠藤乾『統合の終焉－EUの実像と論理』岩波書店 2013 ここまでは「参考」文献というより「必読」文献である。講義の進捗に応じて随時紹介していく。		
履修条件・留意事項等		
履修条件は特に定めないが、欧州に本気で関心があることを前提とする。 欠席はありえないだけでなく、毎週、課題文献を必ず読んでおくことは必須であり、与えられた課題は期日までに提出すること。 受講生に熱意を求めるのは当然のことである。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		アメリカ研究				ナンバリング	3822
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						
授業の位置づけ							
HBUの方針に従い、北海道や日本、世界各地の問題に対処するために、情報を処理・分析し、論理的・批判的に思考・判断する能力を身につけることを目的としています。(思考力・判断力・表現力))							
授業の概要							
この授業は、戦後日本にとって最も重要な国であるアメリカ合衆国について、理解を深めることを目的とする科目である。アメリカはその歴史的背景と形成過程からきわめて多様な社会であり、アメリカの多様性を理解することは、世界の今後を考える上でも重要な項目である。アメリカ文化を、人種、ジェンダー、階級、宗教、アイデンティティなどの視点から再考察し、それらが現代のアメリカの政治経済にどのようにつながっているのかを理解する。							
到達目標							
Course Subtitle: Introduction to American Film and Television History In this class you will watch media in English, usually (but not always) with English subtitles. There will be large amounts of lecture, and reading as well, so listening comprehension and vocabulary growth will be a big part of this class. Students are also expected to speak and discuss various issues in American Media history, and will eventually give presentations on their own topic							
授業の方法							
There will be in class video watching and discussion, in pairs, small groups, and whole class discussions. Students will also need to do weekly readings.							
ICT活用							
There will be a lot of multi-media in the class. Students may be able to use their own devices for certain activities, depending on the lesson.							
実務経験のある教員の教育内容							

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive constant feedback on pronunciation and other oral issues in class activities, as well as written feedback on quizzes, tests, and presentations.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. Introduce class; mini lecture: Origins of film	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第2回	2. Early Cinema: Nickelodeon days	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第3回	3. D.W. Griffith, Development of feature movies	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第4回	4. Silent comedy	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			

第5回	5. The coming of Sound (+ Watch parts of Singing in the Rain)	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第6回	6. Golden era of the studio system (Hollywood in 30s and 40s)	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第7回	7. The coming of TV—Forms, early TV, impact on Hollywood	Prepare for exam!	Review all materials covered in class in first 7 weeks.
担当教員			
第8回	8. MITERM EXAM Also: 1950s Television, Hollywood reaction—Clips from shows (including “I Love Lucy” and “Leave it to Beaver”)	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第9回	9. The Western—Film and TV—America's “art” form—The Western and Americanism	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第10回	10. 1970s–1980s television—diversity in America—Sitcoms, Police dramas, New Cynicism	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			

第11回	11. The Blockbuster film movement—The rise of the big budget movie—aimed at young audiences	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week’s class.
担当教員			
第12回	12. Hollywood genres: Exploitation films, horror	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week’s class.
担当教員			
第13回	13. Indie cinema—Non-traditional, non-Hollywood films in US	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week’s class.
担当教員			
第14回	14. Early Pay television (HBO, etc.) to streaming content (Netflix, etc.), Test prep	Prepare for final exam	Review, Review, Review!
担当教員			
第15回	15. Final Exam	Make sure you have finished all assignments and other work.	Send anything required to Allen within one week of final class.
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 30 Attendance, quizzes, and participation 30 Presentation 10	

その他	0	
教科書		
All materials will be provided by teacher.		
参考文献		
There will be weekly handouts and various prints. Please do not lose them!!		
履修条件・留意事項等		
Please be ready, with your textbook, notebook, and pen at the beginning of each class!		
備考欄		
Bring handouts to class, with questions prepared (if necessary).		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		国際地域文化論				ナンバリング	1800
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
この科目は、「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界の諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、これから世界の各地域の社会や文化、政治経済について勉強していく国際教養学科の1年生のために開講される科目である。国際教養学科では、日本と密接な関係にある世界の各地域や国々の文化について、その地域の出身であったり、その地域に詳しい教員によって2年次以降学習していくが、この授業では、世界の各地域の文化や社会などについて世界を俯瞰する講義を行い、学生がさまざまな地域の社会や文化について大きな見取り図の中から基礎的な知識を修得し2年次以降の学習に発展する前段階を準備することを目的とする。							
到達目標							
この授業では、学生が、古代から現代にいたる文化、社会や政治経済のグローバル化を、比較文化や国際交流の視点から考察することができるようになることを到達目標とする。まず、学生自身が、欧米やアジア、イスラーム、アフリカなど世界のいくつかの地域を、言語・思想・社会・芸術などの様式の違いや共通点に着目し俯瞰することで、文化を比較するカテゴリーを習得し、次に、世界の文化や地域を見る中で養った「眼」で、日本列島の歴史的・現代的な社会と文化を、客観的に考察し、グローバル化時代の日本のあり方を、世界的な視点から理解できるようになることを目指す。							
授業の方法							
印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。 授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。 授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。							
ICT活用							
授業内容に関連するホームページや動画など。							
実務経験のある教員の教育内容							

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・イントロダクション～「地域の特徴って何だろう？自分探しの旅にでかけよう」 何気なく使っている「地域」や「異文化」という言葉。ある冒地域の「文化的特徴とは何か？」という問いに、絶対の答えはないが、文化とは個人や集団の「らしさ」＝identityを形成したり規定する諸々の総体として学ぶ。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	・欧米の社会文化(1)～ヨーロッパとは何か？ 広域地域統合の試みであるEUが注目を集めるヨーロッパ。国家、市民、民主主義など近代や現代の「標準」を生み出したヨーロッパの特性は、「雑種性」hybridityからなる自己革新の力の伝統であることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・欧米の社会文化(2)～アメリカの光と影 自由と民主主義の「聖地」にして、ポップカルチャーの中心地であり、巨大な移民国家。外から見るアメリカと、内から見える深さ・複雑さを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	・イスラームの社会文化(1)～世界文明としてのイスラーム ヨーロッパの次にイスラームを学ぶことには大きな意義がある。キリスト教とイスラーム教という、世界史では対立の図式で語られる二つの文化圏の交流の歴史の大きさを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	・イスラームの社会文化(2)～近現代とイスラーム文化・社会・法・宗教・経済など全てを包括する、巨大システムとしてのイスラームならではの近代化への適応の問題など、政治・経済・文化が分かち難いイスラームを考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・アフリカの社会文化～人類発祥の地にして「未知」の大陸言語・文化・芸術の宝庫にして豊かな歴史を持つアフリカの魅力を、ヨーロッパやイスラームとの国際交流の視点も取り入れて、その奥深さを感じつつ学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	・中南米の社会文化～古代文明からクレオールまで 中南米の古代文明は、極めて高度な都市と文化を築きながら、忽然と姿を消した。文明の隆盛と衰退の外部環境との関係は、中南米のみならず他の全ての文化・文明にもあてはまる。同時に、現代の中南米から着と外来の文化・習慣・言語などの多様で豊かな、クレ奥ールの魅力と社会的融合の可能性についても学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	・インド周辺の社会文化～「文明の母」と世界 古代日本にとって西の端であるインドの文化は、東アジアのみならず、東南アジアや古代ペルシアにとっても重要な文化の発信地であった。サンスクリット語は東へ仏教として流れ、また同時に西方の言語の語源でもある。多言語・多文化社会としての現代インドも深い豊かさを持ち、一言語一国民の均質な近代国家とは異質のモデルを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・東南アジアの社会文化～インドシナの豊穡 現在私たちが東南アジアと呼ぶ地域は、かつて「インドシナ」と呼ばれた。文字通り「インド」と「中国」の両方の文化の影響を受けた地域ということである。また、インドネシアに見られるようにイスラムの影響も大きい。文化の交差点である東南アジアの文化を歴史的に俯瞰しつつ、現代の当該地域の文化のダイナミズムも考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第10回	・東アジアの社会文化～日本との交流を中心に 近代以前の東アジア地域の社会と文化は、どこまでが中華で、どこからが朝鮮か日本かわからないぐらい、連綿とした文化圏であった。近世まで日本を大きく形作った「高文化」としての大陸と日本列島の関係を言語と文化から検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第11回	・日本の異文化交流史～朝鮮半島・中国大陸から欧米まで 日本列島は「世界の文化の博物館」と呼ばれることがある。 世界のたくさんの文化や習慣や技術が日本の中に息づいているからである。日本は閉鎖的な島国ではなく、島国が いかに独自の開放性とそこからくる多様性や豊かさを持つ ているのか、今一度、国際交流史の視点から「日本らしさ」 を検証する。	レポート課題など指定された課 題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノー トなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・グローバル化の中の日本文化(1)～世界の中の日本 日本にありがちな自国文化や歴史の謙虚で消極的な評価 は、主に欧米のフィルターを通して見る世界観に原因があ る。欧米以外の世界の大半で、日本は引き続き魅力的な 目標であり、外交から文化にいたるまで独自の貢献と成果 をあげていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課 題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノー トなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第13回	・グローバル化の中の日本文化(2)～日本の中の世界 一昔前まで国会では「単一民族」発言という「失言」が問題 となった。日本列島の歴史は一度として単一の言語、単一 の文化のみで構成されたことがない。古くは、アイヌと琉球 の先住民の文化と権利の問題があり、現代においてはほぼ 世界中全ての文化と言語が日本において確認できる。多 言語・多文化社会としての日本を考える。	配布プリントと講義の内容をノー トなどで復習すること。(90分)	小論文の内容について振り返り 思ったように書けたのか検証す る。(90分)
担当教員			
第14回	・小論文による理解度と応用力の確認 異文化理解において、どの視点が一番大事であるとか、ど の地域が最重要である、ということはありません。何をどう選 び、あるいは組み合わせて、世界のどこに焦点を合わせ、 どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文で何を学ん だかをまとめる。	これまでの全ての授業の内容と それに対する考えを自分なりに 整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り 思ったように書けたのか検証す る。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～異文化間コミュニケーション論再考 異文化間コミュニケーション論の流れの一つとして、アメリ カ流の自分の文化の基準性を疑わずに、世界各地の文化を 「地域文化」に分割して、「異文化」として矮小化して理解す る方法がある。政治や経済ではなく文化へ着目することで 、国家・民族・国民などの「境界」を「越境」する人間の国際 交流を学ぶ。	自分の小論文をこれまでの授業 内容から自分なりに評価してみ ること。(90分)	フィードバックを参考に自分な りにこの授業で得た知識を考えを まとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%	

その他	0	なし
教科書		
参考文献		
履修条件・留意事項等		
異なる複数の文化の相違点に関心を持つ学生の参加を歓迎する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		東アジア地域論				ナンバリング	2812
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯 諄						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会文化等の国際教養を身につけている」ことや、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」と関係がある科目である。日本と関わりの深い東アジア地域の近現代史を踏まえながら、現在地域が抱える諸問題についての理解を深めるための科目である。							
授業の概要							
この授業は、日本と歴史的にかかわりが深い、中国大陸や朝鮮半島を含む東アジア地域について学ぶ。この授業では、現在の日本の社会や文化を理解するうえでも必要不可欠な東アジア地域の社会や文化、あるいは政治経済について、地域全体の特徴から各国の文化的背景などについて、歴史と地理的広がり二つの軸から立体的に理解することを目指す。							
到達目標							
東アジア地域の多様性を理解し、地域が抱える課題を複眼的に考察する姿勢を養うことを目指す。							
授業の方法							
主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進める。なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。							
ICT活用							
Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業全体の理解度、独自の考えが生まれたのかをリアクションペーパーで確かめ、そのフィードバックも行う。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①授業の概要を説明する この授業では、主に「国際政治」と「文化交流」という二つのカテゴリーから東アジア地域の諸問題を考える。前半は日中関係や日韓関係など、二国間、または多国間関係に焦点を絞り、多様な事例を通して、領土問題、歴史認識問題、分断(台湾と中国、朝鮮半島)などの課題について議論する。その上、問題解決の手がかりや、地域協力の可能性について考える。後半は国家間の相互理解を深めるために期待される文化交流に着目する。現在の若者の関心に合わせ、特にネット時代に生まれた文化現象を取り上げ、議論を通じて文化交流と国際政治との関連性について考える。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(60分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	第2回: 東アジアの近現代史 19世紀半ばから、長く続いた中国を中心とする伝統的な「東アジア国際秩序」が、欧米中心の国際社会の中に組み入れられた。東アジア諸国は各自に近代国家へ進むとともに、主権国家関係が形成しつつある。この過程で、日本がまず成功したが、アジア共栄の考えによって、アジア地域を戦争の泥沼に陥った。戦争は終わっても、課題が残された。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第3回	第3回: 現在の東アジア 経済関係の緊密化、盛んだ文化交流、残された課題も多い。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第4回	第2セクション(第4～7回) 東アジア地域の課題 第4回: 領土問題(尖閣諸島、竹島、南シナ海、北方領土) 各国の歴史教科書から領土問題に関する立場を知る。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第5回	第5回:歴史認識問題 慰安婦問題や南京事件に対する日中韓の認識の違いを知り、未来志向の国際関係の構築において、歴史認識の重要性について考える。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第6回	第6回:朝鮮半島問題 朝鮮戦争の歴史から、南北関係や拉致問題、核問題まで、朝鮮半島の分断が東アジアに与える影響について考える。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第7回	第7回:台湾問題、香港問題 台湾問題と香港問題の本質は何であるかについて考える。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第8回	第8回:プレゼンテーション I 関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。	問題意識を整理し、プレゼンテーションの準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	第3セッション:(第9～13回)東アジア地域の文化 第3セッションでは、東アジア地域の文化交流について議論し、ネット時代における若者文化にも注目する。 第9回:漢字について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第10回	第10回:韓流ドラマやK-POPなど、Z世代で人気を集めている流行文化について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第11回	第11回:「文化窃盗」をめぐる中韓のトラブル「江陵端午祭」、韓服と漢服、食文化などの例を挙げて、トラブルの原因を説明する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第12回	第12回 仏教と儒教 仏教の伝播と受容について学び、儒教への影響について考察する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第13回	第13回 生活文化 食文化や祝祭日など伝統的なテーマから、モバイル決済、デリバリー、お化粧品など現代若者に親しみやすいテーマを扱う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第14回	第14回 プレゼンテーションⅡ 関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。	問題意識を整理し、プレゼンテーションの準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ:講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行いません。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20%)、文献の報告及び口頭発表(40%)、期末レポート(40%)	

その他	0	
教科書		
プリントを配布または配信する。		
参考文献		
参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。		
履修条件・留意事項等		
1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。指定する文献には、参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。無断欠席は必ず減点要素になる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		キャリアデザイン				ナンバリング	3402
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義される。私たちが社会生活や職業生活をしていく上では、生涯を通した「キャリア形成」や「キャリア発達」が重要となる。本講義は、で、私が提案した役割実践法とこれに基づく問題解決、課題達成を図る様々な実践事例を学び(知識・技能)、自身のキャリア形成を設計し就業に向けての方策を主体的にプランニングし(関心・意欲・態度)、その基盤となる家庭生活や社会生活といった人生設計を意識化する。本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この講義では、キ自身のキャリア形成の設計を行う。 その上で、各自が希望する職業調べを行い、その職業に就くための計画を作成する。さらにその職業生活での収入を想定し、家庭生活や社会生活を含めた人生設計・プランニングをする。加えて、退職後の生活についてもプランニングを行う。							
到達目標							
この講義では、キャリアプランニングの方法論を学んだ上で、自身の希望する職業について調べ、職業と家庭生活や社会生活のバランスを図りながら、生涯を通して自己実現と多様な人々との共生をどのようにしていくのかについての人生設計・プランニングを行うことを目的とする。							
授業の方法							
アクティブラーニング(AL)のために、発表、討論、ゲーミング、調べ学習、グループ学習等、様々な授業方法を活用する。							
ICT活用							
スマートフォン、パソコンなどのICT機器やインターネットやWebコンテンツなどを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

民間企業等で20年の経験があり。ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

学びの協働性を大切にし、授業内での学生同士のフィードバックを重視する。受講記録カードに毎時間の学びや質問等を記入し、授業の「ふりかえり」を行い教員や学生同士の意見交流を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○オリエンテーション ・授業の内容と進め方と到達目標、準備・事後学習、課題、成績評価について説明する。	これまでの人生について振り返り、行ってきたことをまとめておくこと(90分)	1号館1階の就職課に各自で行き、求人やそこに掲示されているものを閲覧してくる。また、利用方法が分からない場合は、職員に話しかけ確認してくること。(90分)
担当教員			
第2回	○就職について考えるⅠ(就職課の利用法とその他の方法について) →就職をするための方法を考える →就職課の利用と、その他について[グループディスカッション] *この講義には、就職課職員も出席するため、この機会に、利用法等を全員が理解すること	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	○就職について考えるⅡ(就活スタートアップについて) →就職支援サイト会社様からのお話(就職の傾向と対策、準備について) →講義+個人ワーク+グループワーク	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第4回	○自己分析Ⅰ(自己分析の重要性について) *配布資料を使つての講義、個人ワーク、グループワーク[予定]	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第5回	○就職について考えるⅢ(就活スタートアップについて) →就職支援サイト会社様からのお話 *第3回授業とは別な会社様が来てお話をさせていただきます。 →講義＋個人ワーク	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	○自己分析Ⅱ(自分の強み・弱みについて) *配布資料を使つての講義、個人ワーク、グループワーク [予定]	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第7回	○就職について考えるⅣ(北海道企業について) →就職支援サイト会社様からのお話 *第3回、第5回授業とは別な会社様(北海道企業に精通している会社様)が来てお話をさせていただきます。 →講義＋個人ワーク	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	○自己分析Ⅲ(社会人基礎力について) *配布資料を使つての講義、個人ワーク、グループワーク [予定]	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	○就職について考えるⅤ(中小企業について) →ゲスト講義(中小企業家同友会様)＋講義(教員)＋個人ワーク	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第10回	○自己分析Ⅳ(自分の過去・現在・未来について) *配布資料を使つての講義、個人ワーク、グループワーク [予定]	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第11回	○職種や働き方を知るⅠ（業界分析研究と企業ノートの作り方） →講義＋個人ワークを中心に行っていきます	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	○職種や働き方を知るⅡ（業界分析研究と企業ノートの作り方） ＊配布資料を使つての講義、個人ワーク、グループワーク [予定]	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第13回	職種や働き方を知るⅢ（学部の関連就職先について①） →講義＋個人ワークを中心に行っていきます	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第14回	職種や働き方を知るⅢ（学部の関連就職先について②） →講義＋個人ワークを中心に行っていきます	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第15回	○最終レポートの作成 （レポートの内容は当日発表します）	これまでの配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	準備学習の状況、授業態度、授業意欲、グループディスカッション、各授業内でのレポート、プレゼンテーション、事後学習の状況、最終レポート(これまでの授業の理解度を確認。レポートのテーマについては、最終授業日に伝える)	

その他	0	
教科書		
なし(授業ごとに、資料を配布します)		
参考文献		
授業ごとに紹介していく。		
履修条件・留意事項等		
この科目は、外国語学部「キャリア形成」の科目と一部重複して行い、隔週(2週間に1回・連続2コマ／第1・2ターム)となります。 また、この科目は、本学就職課の協力やサポートいただき行います。よって、就職活動をサポートしている外部会社様がこられたり、本学就職課の職員も参加しますので、毎回、挨拶やお礼などがしっかりと行えるようにしていきましょう。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義される。この授業では私たちが社会生活をしていく上で、生涯を通した「キャリア形成」や「キャリア発達」が重要になることに鑑み、入門のキャリア教育を行う。そのことで、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、自己のキャリアを考察するにあたり、スタート地点となるべき授業である。世の中にどのような仕事があり、先人がどのようにして道を切り開いてきたのかを考える。自分のやりたいこと、目指したい目標を見つけるきっかけになることを目指した授業である。キャリアプランを考える際に重要な2つの視点は、自分を知ることと、相手(仕事や会社)を知ることである。自分がどのような仕事をしたいと望むのか、そして、その仕事を遂行するための資質とは何かを探ることで自分を知ることができる。また、そのような仕事を実際に存在するのか、そしてどのようにしたら、その仕事に就けるのかを考えることが、相手を知ることである。ここでは、この2点を理解するための授業を展開する。							
到達目標							
1. 他者について、表面的なことだけでなく内面的なことも理解し、配慮や協調を持って接することができるようになる。、 2. 自分についての強みや弱みを把握し、説明ができるようになる。 3. 置かれている状況の機会や脅威を予測し、仮説を立てて行動ができるようになる。 4. 自分の社会人・職業人としての具体的な方向性をイメージし、それに向けた目標を立てて行動をすることができるようになる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。							
ICT活用							
Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、ゲーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○オリエンテーション(授業の進め方) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる	これまでの人生について振り返り、 行ってきたことをまとめておく こと(90分)	授業内容を復習しまとめておく こと(90分)
担当教員			
第2回	○他者について知るⅠ ・クラスの仲間について →アイスブレイク →グループワーク *グループ内での自己紹介(事前課題を使って) ⇒他者を知り、多様な価値を受け止める) ○コミュニケーションについて考える →コミュニケーションとは? ⇒相手の立場になって物事を考えられるようになる	プレゼンテーションの準備を行 っておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員			
第3回	○他者について知るⅡ ・クラスの仲間について →アイスブレイク →グループワーク *グループ内での自己紹介(事前課題を使って) ⇒他者を知り、多様な価値を受け止める) ○コミュニケーションについて考える →コミュニケーションとは? ⇒相手の立場になって物事を考えられるようになる	プレゼンテーションの準備を行 っておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員			
第4回	○大学在学中の過ごし方と卒業後について考えるⅠ →大学在学中に行う必要なことや、卒業後についての自分 のことを考えてもらうために、個人ワーク、グループワークを おこなっていく *また、最近の就職動向等について報告する	大学4年間の行動計画を立てる こと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員			

第5回	○大学在学中の過ごし方と卒業後について考えるⅡ →大学在学中に行う必要なことや、卒業後についての自分のことを考えてもらうために、個人ワーク、グループワークをおこなっていく *また、国際学部の学生が強みとなることや、今後各自で補わなければならないことについて講義していく	自分が行いたい仕事、行いたくない仕事、どちらでもない仕事について徹底的に考えまとめていくこと。また、その仕事が行いたい、行いたくない、どちらでもない理由も書き出しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	○大学在学中の過ごし方と卒業後について考えるⅢ →大学在学中に行う必要なことや、卒業後についての自分のことを考えてもらうために、個人ワーク、グループワークをおこなっていく *大学在学中の取組(学外学修やボランティアなど)事例の報告	自分の強みや弱みを伸ばすために、大学外で行なければいけないことを考えてまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第7回	○大学在学中の過ごし方と卒業後について考えるⅣ →大学在学中に行う必要なことや、卒業後についての自分のことを考えてもらうために、個人ワーク、グループワークをおこなっていく *グループワークを中心に行い、他者との違いを把握することを目的とする	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	○社会に必要な能力を知るⅠ ⇒社会人基礎力を伸ばすために、グループワークをとおし、考え抜く力、前に進む力を身につけていく	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	○社会に必要な能力を知るⅡ ⇒人生100年時代において、必要な能力を知る ○他者について知る ⇒自分が尊敬する、または気になる人の人生について調べてみる	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第10回	○社会に必要な能力を知るⅢ ⇒自己分析の重要性の把握と、自己分析の実施	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第11回	○社会に必要な能力を知るⅣ ・履歴書の正しい書き方について① ⇒履歴書を作成し、これからの学外授業（インターンシップやニセコ国際研修）に備える能力を養う	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	○社会に必要な能力を知るⅤ ・履歴書の正しい書き方について② ⇒履歴書を作成し、これからの学外授業（インターンシップやニセコ国際研修）に備える能力を養う	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第13回	○他者について知るⅢ ・自分と他者の自我を考える ・交流分析を把握する	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第14回	○社会に必要な能力を知るⅥ ・マナーやルールについて ・ホスピタリティについて (今後のインターンシップや学外学修に向けたトレーニング)	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第15回	これまでの講義の振り返りと最終レポート →チーム編成をして、これまでの振り返りのためのディスカッションと発表を行う →最終レポート提出	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	準備学習の状況、授業態度、授業意欲、グループディスカッション、各授業内でのレポート、プレゼンテーション、事後学習の状況、最終レポート(これまでの授業の理解度を確認。レポートのテーマについては、最終授業日に伝える)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
授業ごとに紹介していく。		
履修条件・留意事項等		
授業は、グループワークを中心に構成しているため、遅刻は原則欠席扱いとする。ただし、本学の規定に沿った理由で遅刻となる場合は、用紙などを添えて提出すれば出席とする。詳細はオリエンテーション時に報告する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		ファイナンシャルプランニング				ナンバリング	3436/1142
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健、小西 正人、矢部 玲子						
授業の位置づけ							
社会人として必須の金融管理の知識を身に付ける。授業内容は日本FP協会認定資格の取得を目指した授業となる。主として同資格を取得したい学生向けの授業であるが、授業内容の性質上、幅広く金融に関する知識を修得したいという学生であれば資格取得を目的としない学生についても歓迎する。「経営財務分析」の基礎となる。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)。問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる(思考・判断・表現)。							
授業の概要							
本講は金融に関する知識と経済の仕組みを包括的に学ぶことを目的とする講座である。具体的にはファイナンシャル・プランニングの資格取得を目標とする。個人をとりまく経済・金融環境が急速に変化し、生活者としての個人にも自己責任が求められる場面が増え、「生きる力」の養成が急務となっている。このような環境の下で、ファイナンシャル・プランニングの資格検定学習を通じて、金融の包括的かつ実践的な知識を身につけ、今後の人生に資する力を身につけることを目指す。							
到達目標							
1. 自分のライフスタイルや価値観、経済環境を確認できる。 2. 自分の家族状況、収入と支出の内容、資産、負債、保険などのデータから、現状を分析できるようになる。 3. 様々な領域にわたる包括的なアプローチによって、必要なファイナンシャル・プランナーとして最小限必要な知識を学び、少なくとも国家資格(FP技能士)3級取得へ意識化できる。							
授業の方法							
配布教材とプリントを配布して講義形式ですすめる。夏季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること。 フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

外部講師より(詳細はオリエンテーション時にお伝えします)

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、指定教科書、勉強方法などを説明し、FP3級資格に求められる基本知識を概説する。	FP資格の活かし方を考えてレポート形式でまとめること(90分)	FP資格取得に向けたスケジュールの作成(90分)
担当教員			
第2回	ライフプランニングと資金計画(1) FPの倫理、関連法規、FPの考え方・手法について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめること(90分)	授業で学んだ内容を問題集で確認し、まとめること(90分)
担当教員			
第3回	ライフプランニングと資金計画(2) 社会保険、年金、年金と税金、資金計画、ローンとカードについて学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめること(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	リスク管理(1) リスクマネジメント、保険制度全般、生命保険の基礎・商品について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめること(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	リスク管理(2) 損害保険の基礎・商品、第三分野の保険、保険と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	金融資産運用(1) マーケット環境、預貯金・金融類似商品、投資信託、債券投資について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第7回	金融資産運用(2) 株式投資、外貨建商品、金融派生商品、ポートフォリオについて学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	金融資産運用(3) 金融商品と税金、セーフティネット、関連法規について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	タックスプランニング(1) 日本の税制、所得税の仕組み、各種所得、損益通算について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第10回	タックスプランニング(2) 日本の税制、所得税の仕組み、各種所得、損益通算について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			

第11回	不動産(1) 不動産の見方、取引、法令上の規則、取得・保有に伴う税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	不動産(2) 不動産の見方、取引、法令上の規則、取得・保有に伴う税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	相続・事業承継(1) 贈与と法律、贈与と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	相続・事業承継(2) 贈与と法律、贈与と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	重要ポイントのまとめ 試験出題頻度の高い項目の再学習を行う。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(授業内タスクシート作成含む)70%、課題30%。	

その他	0	
教科書		
授業前に最新の『FP攻略本3級』を配布する。		
参考文献		
FP技能士資格取得に推奨できるテキスト、問題集を適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
留意事項等 全ての回の講義への積極的参加を必須とする。 集中講義方式で履修するので、開講時期・場所等について学科掲示板での告知に注意を払い、初回ガイダンスには必ず出席すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		経営マネジメント				ナンバリング	3432
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	芝 香						
授業の位置づけ							
グローバル経済が進展した現代において、経済環境や競争環境、雇用や働き方なども急激に変化している。このような激しく環境が変化する状況化では柔軟にその変化に対応できることが企業や個人にも求められており、戦略志向やマーケティング志向を身につけた人材が社会全体のなかで必要とされている。本科目は、ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感性」を身につけることや「世界と繋がるために地域社会を理解」することに関係する科目であり、世界や地域社会を理解し、外部環境の変化に対応するためのマネジメントについて学ぶことで、社会人としての基礎力を身につける科目である。							
授業の概要							
この授業は、経営とはなにか、ドラッカーの『マネジメント:基本と原則』をベースに、現代社会と組織・企業におけるマネジメントの課題・責任・実践および事業の成果を上げるためのマネジメントについて、その基礎的な考え方を学ぶ。経営学としてのマネジメントは「ひとりではできないことをやり遂げるために、人の協働と分業の仕組みを作り、その経営資源(モノ・カネ・情報)を含めて、適切に育て活用していくこと」である。マネジメントは、経営学、会計学、商学、生産システム等、複合的な視点から経営問題を考えていく必要があるが、ここでは、組織の社会性と個人、組織における人間行動、人的資源管理に焦点を当て、企業のヒトを活用した経営戦略「人材マネジメント」事例から学ぶ。							
到達目標							
本授業の到達目標は、以下の3点である。 1)授業やテキストで取り上げたレベルの経営学の基本的な考え方を説明できる。 2)企業の活動を経営学の視点で考え就職活動やグローバル社会で活躍するために応用できる。 3)興味がある企業や業界について掘り下げて考え、自分なりに分析・説明できる。							
授業の方法							
授業では、前半は事前課題の内容をテーマにしたケース・ディスカッション、グループ単位でのプレゼンテーションを行う。後半はフィードバックとして理解度を確認するためパワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて、講義形式でマーケティングに関わる理論やケースに対する講義という順序で授業を進める。事後課題は、授業の内容についての振り返りなどを確認するGoogle Formsを用いた小テスト形式のクイズを提出を行い、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。							
ICT活用							
本授業ではGoogleDirveやGoogle Docs、Office365などのクラウドサービスを中心としたOfficeツールを積極的に活用した授業を実施する。具体的には、GoogleClassRoomを用いて事前課題、事後課題を提出するなどの学習管理を実施し、課題にはGoogle SpreadやMicrosoft PowerPointでのプレゼンテーション資料の作成に取り組み、プレゼンテーションをグループ毎に発表するなどのアクティブラーニング型授業を実施する。							
実務経験のある教員の教育内容							

経営コンサルタント業を自らが起業し、恵庭市での起業塾講師を行うなど十数年にわたりサービス産業を中心とした創業支援を行ってきた。また長らく大手旅行代理店の業務効率化支援(DX業務)を実務として支援した経験や企業経営幹部や創業希望者を対象としたビジネスゲームやケーススタディを用いたセミナー運営、人事採用担当であった経験を活かし、理論的な学びをベースとしながらも就職活動などで役立つ実践的な授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前・事後課題へのフィードバックとして、授業にて課題の解説を行う反転授業型のアクティブラーニングスタイルによるフィードバックで授業を実施する。また、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクションとして、経営マネジメントの授業概要と進め方を説明する。また、組織・企業におけるマネジメントに関する研究がなぜ必要となったのかについて、階層構造の組織の理解を通じ組織とは何かについて理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第2回	組織のマネジメントに必要な5つの能力 マネジメントには「目標設定」「組織づくり」「コミュニケーション」「評価測定」「人材開発」の5つ能力が必要とされる。この5つについての能力がなぜ組織のマネジメントに必要なのかについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第3回	伝統的組織管理論とモチベーション 伝統的な組織管理の経営学説から現代のマネジメントに至るまで人のやる気を上げるためにどのように取り組んできたのかを学ぶことで、モチベーション向上させることと働きがいとは何かについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第4回	経営組織の構造と形態 マネジメントは権力ではなく人を活かす責任であるとされる。組織において目標到達のためには適切な権限を持つものが適切な範囲で権力を行使しなければならないことを組織の構造と形態を学ぶことで理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第5回	目標設定とKPI 組織が成果を上げるためには組織のメンバー全員が共通認識を持つことができる明確な目標を立てその方向性を確立することが求められる。どのような目標を設定すれば良いのかKPI(重要業績指標)について学ぶことで目標設定の重要性を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第6回	営者やマネージャーに必要なリーダーシップ 組織が成果をあげるためには経営者やマネージャーといった組織のリーダーによる動機付けと適切なコミュニケーションが必要であることを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第7回	外部環境の変化と組織戦略 グローバル化の進展、パンデミック、社会課題の変化などにより、企業や組織を取り巻く外部環境は大きく変化する。変化する環境のなかで優れた解決手法があったとしてもその手法を活かせる組織になっていなければならないことから、どのように組織をデザインすれば変化に対応できる組織となるのかを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第8回	経営戦略とは 戦略の歴史から現代の組織がどのようにして経営戦略に取り組んできたのかということを学ぶことで、経営戦略の基本的な考え方を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第9回	ポジショニングアプローチ ポーターが提唱したポジショニングアプローチによる基本戦略について学ぶことで競合がいる環境下での競争に対応するための考え方について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第10回	コトラの市場地位別戦略 企業が保持している経営資源の質と量により、業界内の各企業を、リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワーの4つに分類し、それぞれの地位に基づいた戦略があることを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第11回	内部環境分析(BCGとVRIO分析) 企業や組織が保有するリソース(経営資源)に着目し、資源の獲得が競合企業との競争で優位に立てるというリソース・ベースド・ビュー”(Resource-based view)という考え方と分析するフレームワークとしてBCGとVRIO分析を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第12回	顧客価値とイノベーション 企業の存在価値を決めるのは顧客であり、企業はイノベーションによって顧客価値の創出を目指すしなければならないことをさまざまなイノベーションのケーススタディを学ぶことでその重要性を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第13回	財務分析の基礎(財務3表) 企業分析に必要な財務諸表による企業活動の理解のため、財務3表の構造と意味について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第14回	財務分析の基礎(収益性、安全性、活動性、成長性) 財務諸表分析とも呼ばれる経営分析として、財務諸表の定量的なデータを用いて会社の財務状況の分析手法を学ぶことで、客観的に経営状況を把握し就職活動に役立てる方法について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第15回	戦略と組織の融合としてのビジネスモデル 経営資源(ヒト、モノ・カネ・情報)を含めたすべてを俯瞰的にみることが可能なビジネスモデルキャンパスのフレームワークを学ぶことで、ビジネスを成功に導くためのアプローチについて理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	85	事前・事後課題の内容やプレゼンテーションを総合的に評価する。したがって、課題を提出しない場合には出席日数が規定を充たしていても不合格となる場合があることに留意すること。	

その他	15	特に授業参加の積極性を評価する。
教科書		
必要に応じて配布資料を提示する。		
参考文献		
授業内で資料を提示する。		
履修条件・留意事項等		
本科目は社会人として就業する力を身につけるための科目として位置づけられている。したがって、授業では事前課題をテーマにしたケースディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う予定もあり、授業開始前までに理解を深めるために事前課題に必ず取り組み期限までに提出すること、欠席する予定の場合は事前に、急遽欠席した場合は事後にメールやGoogleClassRoomを通じて連絡や報告を必ず行うことを履修条件とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		現代日本語論				ナンバリング	3328
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
現代日本語の変化を説明できるようになるため、実際の日本語使用に主眼を置いた高度な日本語の運用能力を身につける(知識・技能)ための科目である。社会人基礎力としての日本語表現の向上を目指し、目的や場に合わせた適切な日本語運用を身につけ(知識・技能)、日本語を用いた日常生活で適切な道徳観、倫理観を持ち、主体的に他者との共生・協働することを可能とする柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えて(関心・意欲・態度)いく。 「日本語表現技法Ⅰ・Ⅱ」「日本語コミュニケーション技法」「日本語学」に続く科目で、「実用日本語」分野科目である。							
授業の概要							
この授業は、現代日本語の変化を社会言語学的視点で分析し、ことばと社会の関係、つまり、ことばは社会を映し出す鏡であることを検証していく。日本社会における独特な「役割語」を糸口に、社会的立場による言語使用のパラエティークから、対人関係の親疎やポリティカルコレクトネスと差別語、女ことば等から、社会変化とともに変化することばと変わらないことばの核を眺めていく。受講生は指定テーマごとに調査・発表をし、ディスカッションしていく。たとえば、新語流行語と言語消費、若者ことばの造語法、言語景観やビクトグラムから多言語社会における言語サービスのあり方、アイヌ語や手話など少数派とされる人々の言語権を考えていく。							
到達目標							
1 敬語も含めて「正しい」日本語運用を意識化できる。 2 現代日本語の変化に敏感に気づけるようになる。 3 若者ことばとフォーマルな表現等、場に合わせた使い分けができる。 4 方言を含めた「役割語」が説明できる。							
授業の方法							
各授業の前半はスライドや配布プリントを使って講義形式で行い、後半はその項目に関連したワークショップと振り返り作業を中心に行う。受講生には課題発表やグループでのプレゼンテーション(2回)と確認テスト(1回)を予定している。							
ICT活用							
課題や資料配付、質問等はGoogle Classroom を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は次回の授業時にコメントを添えて個別返却し、授業内で全体の講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 現代の日本語の問題点は何か、自分の日本語運用での問題点はなにかをグループごとに意見交換していく	近年の日本語のことば遣いに関する問題を具体的に3つ以上考えてくる。(90分)	スマホにおける各自の日本語文の使用パターンを整理しておく。(90分)
担当教員			
第2回	日本語表現の変化Ⅱ 現代の日本語をめぐる諸問題について概説する。 「気になる言い方」について、自身の言語表現と照らし合わせ、その運用傾向を振り返る。	正しい日本語とはどのようなことか、事例を2つ以上あげ、説明できるようにしておく。(90分)	ゆれている日本語表現を5つ以上探して、使用事例を書いておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	日本語表現の変化Ⅱ 現代の日本語をめぐる諸問題について概説する。 「気になる言い方」について、自身の言語表現と照らし合わせ、その運用傾向を振り返る。	「すごっ」「寒っ」といった話し言葉における形容詞の感情表現の文法規則を考えておく。(90分)	世代差のある日本語語彙使用を5つ選び、表現特徴を考えておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	役割語と現代の若者ことば 役割語からことばとアイデンティティーについてを講義する。 受講者はグループごとに、近年の若者ことばの特徴とその使い方を発表し、世代別の言語運用の特徴を確認していく	現代の若者語はどのようにして作られ、どのような場で用いるのか、自身の言語使用経験から分析しておく。(90分)	日本語の若者ことばの語構成傾向をまとめておく。(90分)
担当教員			

第5回	方言コミュニケーション 受講生は各自が選択した方言の特徴とその使い方をプレゼンテーションし、日本の代表的な方言の使い方を共用する。	指定の各方言の特徴をその具体的使用例をあげ、プレゼンの準備をしておく。(90分)	方言の格差について、ネットではどのような地位が与えられているかを調べておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	方言コミュニケーション 受講生は各自が選択した方言の特徴とその使い方をプレゼンテーションし、日本の代表的な方言の使い方を共用する。	指定の各方言の特徴をその具体的使用例をあげ、プレゼンの準備をしておく。(90分)	指定の各方言の特徴をその具体的使用例をあげ、プレゼンの準備をしておく。(90分)
担当教員			
第7回	ことば遣いの効果的な活用とは 「女ことば」をはじめ日本語の多様な役割語を通して、心理的に結び付けられたスピーチスタイルとその効果を分析していく。	ある表現が特定の人物像を造るキャラ語を8つ以上収集しておくこと。(90分)	多様な表現を分類し、その分類基準を説明できるようにしておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	適切な表現とは ことばによる差別や不適切な表現とは何か。マイクロアグレッションのいろいろを自身の体験と他者の言語感覚についてディスカッションしていく。	差別語や放送禁止用語を10以上リストアップし、なぜそれが該当するのか、そしてその言い換え表現を2種類以上、考えておくこと。(90分)	不適切とされる表現について、日本語と英語辞書の記述を確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	日本の言語景観Ⅰ 学生が収集した言語景観を発表する。それらの日本語表現から日本社会の変化や日本語文化を分析していく。	各自の言語景観のプレゼン準備(スライド作成含む)をしておく。(90分)	公共施設における掲示文や説明文の書き換えをしておく。(90分)
担当教員			
第10回	日本の言語景観Ⅱ 学生は商品や商品説明に記された「問題な」日本語文をプレゼンする。そこから、日本語のレトリックを分析していく。	各自の言語景観のプレゼン準備をしておくこと。(90分)	日本語のレトリックを雑誌委等から5つ収集しておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	外国語としての日本語 外国語としての視点で日本語を眺め、日本語の比喻表現やレトリックを確認し、英語比喻と比べてものごとの「見立て」方の違いと共通点を考える。	外国人が日本語を学ぶうえで難しいことはどのような学習項目か具体的に調べておくこと。(90分)	公的機関の情報を「やさしい日本語」と「平易な日本語」で書き換えておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	日本語会話の特徴 共和型コミュニケーションと対話型コミュニケーションを比較し、会話のスタイル分析の演習をする。	察しや場を読むといった高コンテキスト文化とはどのような情報共有かを説明できるようにしておく。(90分)	市役所の広報誌に掲載されている「お知らせ」を読み、子供や高齢者が一読で理解できる文に訂正しておく。(90分)
担当教員			
第13回	日本の絶滅危機言語 アイヌ語	日本語の中のアイヌ語またはアイヌ語をルーツする借用語を30以上記しておく。(90分)	アイヌ語で簡単な挨拶や感情表現ができるようにしておく。(90分)
担当教員			
第14回	ポライトネスとは 日本語コミュニケーションにおける敬語、敬意表現と丁寧さを考える。	敬語体系を書籍やサイトで読んで復習しておくこと。(90分)	タスクシートを完成しておく。(90分)
担当教員			
第15回	確認テストと復習	復習しておくこと。(120分)	確認テストの誤答を訂正し、補足説明を記しておくこと。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表やプレゼンテーションを含めた授業参加度60%、課題20%、確認テスト20%。	

その他	0	
教科書		
講義プリントを配布する。		
参考文献		
文化庁国語課『国語に関する世論調査』各年版、岡本佐智子『日本語教育能力試験に合格するための社会言語学10』2008、アルク。ほか、授業で適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		世界の言語と日本語				ナンバリング	1320
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
この科目は、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身に付けることを達成する科目であり、他の言語系科目と関連する。							
授業の概要							
この授業は、できるだけ多くの世界の言語に触れることにより、英語などの大言語だけが「外国語」でないことを知ること、そして 日本語を外国語として見るができるようになることにより、世界の言語の中における日本語を発見していく。受講生は、これまでどんな言語を学んだことがあるか、どんな言語に興味があるか調査し、世界の言語、言語学の歴史(世界の言語はどのようにして分かれたのか、どれが兄弟・親子関係にあるのか)について学んでいく。授業では 簡単な諸外国語の会話練習を通して、外国語学習の壁を取りはらい、世界の言語社会への視座を広げていく。							
到達目標							
この授業では、できるだけ多くの世界の言語にふれることにより、 1) 英語だけが「外国語」でないことを知ることができる。 2) 日本語を外国語として見るができるようになり、日本語を本当に知ることができる。 3) 英語が苦手でも他の言語で自信を取り戻せる。 また授業では会話練習を徹底的に重ねることにより、 1) 英語以外の外国語での挨拶ができるようになる。 2) 街で外国人に会ってもどきどきせずに挨拶できるようになる。 3) 世界中を旅するコスモポリタンな気分になれる。 ※ 以下のシラバスで「学修する」と書かれている場合は、すべて「学び修する」の意である。							
授業の方法							
板書・配布資料・視聴覚メディアを活用しながら、講義形式で進める。ただし毎回の課題および発音、会話の各受講者の理解度を毎時間確認し、徹底的に身につけてもらう。							
ICT活用							
Google Workspaceに付属している機能(Google Formなど)によって練習問題等を提供し、課題および自主学習を促す。またGoogle Classroomにて参考資料や参考HPを紹介したり、補足資料などを随時提供する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題は基本的にはコピーを提出してもらい、授業内で問題点を共有しつつ自己チェックで各自の問題点を自発的に見つけてもらう。小テストは可能な限り翌週に返却し、課題提出と併せて詳細な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション・イントロダクション 授業の進め方、評価方法、心がまえなどについて説明。 世界の言語:世界の言語はどのようにして分かれたのか、 どれが兄弟・親子関係にあるのかについて。 フランス語(1):アルファベットと発音、名詞と冠詞について 学修する。 韓国語:ハングルの形成法、基本母音字を学修する。	世界の言語に興味をもち、いろいろ調べてみておいてください(30分)	フランス語の名詞と冠詞について、およびハングルの基本母音字について復習(180分)
担当教員			
第2回	※以下、各言語について会話文を覚えるほど発音練習してもらいます。 フランス語(2):人称と動詞変化(活用)について学修する。 韓国語:基本母音字の復習、子音字(가・나·다·라·마·바·사)を学修する。 アイヌ語:あいさつ言葉など	フランス語の人称変化に関する資料を配布あるいは周知するので読んでおく(60分)	フランス語の人称変化に関する練習問題、および韓国語の基本母音字・子音字(가·나·다·라·마·바·사)の練習問題(120分)
担当教員			
第3回	フランス語(3):所有形容詞、指示詞について学修する。 韓国語:その他の基本子音字を学修する。	韓国語の子音字(平音)を復習しておく(30分)	フランス語の所有形容詞および指示詞に関する問題、韓国語の基本子音字に関する課題(150分)
担当教員			
第4回	フランス語(4):人称代名詞(対格・与格)、形容詞について学修する。 韓国語:激音、濃音を学修する。そろそろ韓国語会話にも挑戦する。 アイヌ語:会話に挑戦!(その1)	韓国語の基本子音字について復習(30分)	フランス語の試験準備、および韓国語の会話暗誦(180分)
担当教員			

第5回	フランス語筆記テスト 韓国語:合成母音字を学修する。引き続き韓国語会話に挑戦。	フランス語筆記テストの準備 (120分):事前に昨年のテストを配布します。	フランス語のテスト問題を解く (150分)
担当教員			
第6回	ドイツ語(1):発音と名詞について学修する。 韓国語:パッチムを学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!(その2)	韓国語会話練習(30分)	ドイツ語会話を覚える。これまで学んだハングルを確実に覚える (150分)
担当教員			
第7回	ドイツ語(2):人称と動詞変化について学修する。 韓国語:ハングル発音テストプリントの説明、解説。	ハングルの復習(30分)	ドイツ語の人称変化に関する課題、およびハングル発音テストプリントの復習(150分)
担当教員			
第8回	ドイツ語(3):冠詞と格と人称代名詞について学修する。 韓国語:指定詞이다、助詞는/은を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!(その3)	ハングル発音テストの準備(60分)	ドイツ語の冠詞・格・人称代名詞に関する練習問題(150分)
担当教員			
第9回	ドイツ語・総復習時間 印欧語について(文字・分布・特徴など)学修する。 韓国語:아니다、助詞가/이を学修する。	ドイツ語筆記テストの準備(150分)	ドイツ語のテスト準備、および韓国語指定詞の練習問題(120分)
担当教員			
第10回	ドイツ語筆記試験 韓国語:存在詞있다、助詞에を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!(その4)	ドイツの試験準備(150分)	ドイツ語試験問題(150分)
担当教員			

第11回	アラビア語について簡単に紹介。 韓国語:練習問題をやりながら総合復習。	韓国語の復習(30分)	アラビア語の文字練習・会話練習、韓国語の復習・会話練習(150分)
担当教員			
第12回	スワヒリ語(1):発音、時制、アスペクトについて学修する。 韓国語:합니다体、関連助詞を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!(その5)	スワヒリ語について事前調査(30分)	スワヒリ語練習問題、韓国語練習問題(150分)
担当教員			
第13回	スワヒリ語(2):名詞クラスについて学修する。 韓国語:数字、およびさまざまな助詞を学修する。	スワヒリ語について事前学習(30分)	スワヒリ語および韓国語練習問題(150分)
担当教員			
第14回	スワヒリ語(3):総合復習、会話練習 韓国語:総復習	韓国語の数字を暗誦(30分)	スワヒリ語テストの準備(180分)
担当教員			
第15回	スワヒリ語テスト、および解説等	テスト準備(180分)	テスト問題解答(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期テストは実施しません。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト(筆記および会話暗誦)、授業内の課題(ハングルテスト含む)、授業参加度による総合評価を行う。	

その他	0	
教科書		
適宜、講義プリントを配布します。		
参考文献		
ビジュアル版世界言語百科／ピーター・K・オースティン編／終風社 事典 世界のことば141／梶茂樹他編／大修館書店 The Languages of the World／Kenneth Katzner／Routledge ニューエクスプレスプラス アイヌ語／中川裕／白水社		
履修条件・留意事項等		
くれぐれも横着しないようにしてください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語と日本文化				ナンバリング	2326
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
この授業は、日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)ための、発展科目となる。 世界の日本語話者とつながるために日本語文化を理解し、その日本語文化を発信できる国際感覚を身につける(関心・意欲・態度)ことを目指している。 英語や中国語などの外国語コミュニケーション能力養成には、母語である日本語の視点から、異言語・異文化の表現の共通点と差異を学び、言語と文化を分析する視点を養う。 実用日本語科目群のひとつであり、言語プロフェッショナル科目、異文化コミュニケーション科目につながる。							
授業の概要							
この授業は、ことばと文化を分析する方法のひとつとしてメタファーやレトリック、外国語に対訳しづらい日本的な表現に焦点を当て、日本語の背景にある日本文化を探究する。受け身表現と「ある」「なる」、「どうも」「よろしく」「まあ、ちょっと」等々、日本語ならではの表現だけでなく、出来事や物事をメタファーで見ていくと、日本語母語話者はどのように物事を見立てているのか、日本人の思考方法や価値観、世界観等が見えてくる。外国人が日本語を学ぶ視点、つまり「ソト」から日本語を眺めてみることで、外国語としての日本語にはどのような言語文化があるのかが見えてくる。							
到達目標							
1. ことばと文化をメタファーから分析する手法で仮説を立てることができる。 2. 日本語と英語における基本的メタファーを比較できる。 3. 日本語と英語・中国語などの外国語の諺や慣用句表現を説明できる。							
授業の方法							
各授業の前半は、パワーポイントと講義プリントを用いて講義形式で進めるが、後半はグループまたはペアワークで各課題に関して調査・発表し、ディスカッションしていく。 プレゼンテーションは3回行い、復習として確認テストを1回行う。							
ICT活用							
課題や資料提示、学生からの質問はGoogle Classroomを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時までコメントを添えて個別に返却し、授業で全体の講評を行う。プレゼン等の発表は授業内で講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ことばと文化の関係を日本語から考えてみよう。	日本語表現の特徴を5つ以上考えておく。(90分)	日本語表現の特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			
第2回	ソトから眺める日本語 日本語学習者にとって、日本語の難しさとは何かを理解する。	外国人が日本語を学ぶ際、どんなことが難しいかを調べておく。(90分)	日本語学習者にとって日本語の音声の難しさをまとめておく。(90分)
担当教員			
第3回	日本語のコミュニケーション 話し相手をどう呼ぶか、謝罪や判断留保など日本語コミュニケーションのマジックワードを考える。	日本語における呼称(英語のyouに対応する)表現のいろいろを10以上考えておく。(90分)	日本語における書きことばと話しことばの呼称を、コンテキスト別にまとめておく。(90分)
担当教員			
第4回	日本語のレトリック 謝罪や勧誘、依頼表現の文化視点	外国人日本語学習者にとって難しい表現はなにかを調べておく。(90分)	謝罪、依頼、勧誘の日英対照表現をまとめておく。(90分)
担当教員			

第5回	日本語からみた日本語の発想Ⅰ 日本文化のウチとソトを確認し、自己の視点中心の日本語と自己を対象化する英語を比べて見よう。	ウチとソトの切り換え基準を確認しておく。(90分)	ウチ、ソト、ヨソの構造をまとめておく。(90分)
担当教員			
第6回	日本語からみた日本人の発想Ⅱ 能動態と受動態: 日本語の受身表現の視点を考える。	日本語表現で受身形を用いる場面や状況などを確認しておく。(90分)	日本語の受身表現と能動表現の使い方をまとめておく。(90分)
担当教員			
第7回	ことばと文化を分析する視点 日本語文化を比喩表現から分析してみよう	日本語の諺で、いかにも日本的だと思われる諺を10以上リストしておく。(90分)	日本語の諺と同様の意味の英語の諺をまとめておく。(90分)
担当教員			
第8回	メタファーのいろいろⅠ 上下空間のメタファーを考えてみよう。	メタファーとは何か、定義とその具体例を調べておく。(90分)	日英対照メタファーで「上下」に関する語句や慣用表現をまとめておく。(90分)
担当教員			
第9回	メタファーのいろいろⅡ 大小・高低のメタファーを考える。	英語における大小を表わす語句や慣用表現を調べておく。(90分)	日本語のメタファーにおける高低・大小と英語の共通点をまとめておく。(90分)
担当教員			
第10回	メタファーのいろいろⅢ 英語の動物メタファーについて、グループでプレゼンテーションする。	プレゼンテーション準備をしておく。(120分)	外国語と動物のメタファーの共通点と相違をまとめておく。(60分)
担当教員			

第11回	メタファーのいろいろⅣ 外国語と日本語の喩えはどこが、どう違うのかをプレゼンテーションする。	プレゼンテーションの準備をして おく。(120分)	プレゼンテーションの修正をして おく。(60分)
担当教員			
第12回	日本語のユーフェミズム ことばの代替と実体の変化の関係を眺める。	婉曲語法にはどのような表現が あるかを調べておく。(90分)	日本語における外国語使用や 外来語のユーフェミズムをまとめ ておく。(90分)
担当教員			
第13回	日本語のメトニミー 空間的隣接と時間的隣接から誇張法を分析する。	商品や北海道の観光案内など、 そのキャッチフレーズから誇張と 思われる表現を調べておく。(90 分)	メトニミーについてまとめておく。 (90分)
担当教員			
第14回	日本語の擬人法 物語や昔話からの擬人法についてプレゼンテーションする。 。	プレゼンテーションの準備をして おく。(120分)	プレゼンテーションで用いた資 料やスライドを修正しておく。(60 分)
担当教員			
第15回	まとめ レトリックに関する専門用語の確認テストを行う。 日本語母語話者が、外国語を使用するとき、どのような表 現が誤解されたり理解されづらいかを確認する。	メタファー、メトニミー、シネクドキ 等の専門用語と用例を確認して おく。(120分)	確認テストの間違いを訂正して おく。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	課題とプレゼンテーション50%、ディスカッションや作業を含む授業参加度30%、確認テスト20%。	

その他	0	
教科書		
講義プリントを配布する。		
参考文献		
森田良行『日本語文法の発想』2005、ひつじ書房。G. レイコフ他『レトリックと人生』1986、大修館書店。瀬戸賢一『認識のレトリック』海鳴社。ほか授業で適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語コミュニケーション技法				ナンバリング	2304/2360
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。「日本語表現技法Ⅰ・Ⅱ」の発展科目である。							
授業の概要							
この授業は、情報端末を介した交流が日常的になった現代、さまざまなコミュニケーションのチャンネルが広がっているが、人と対面して「話す」ことがコミュニケーションの基本であることの重要性が再確認されている。この授業では、信頼関係を築くための非言語メッセージはもとより、良質の「スピーチ」を客観的に観察することなどを通じ、「きく」ための技術やアサーティブなコミュニケーション技術を身に付けていく。授業では、目的に合わせて自分をどうアピールしていくのか、自己PR動画や就活面接用ウェブ動画の制作と振り返りで、目的に合ったパフォーマンスができるようになることを目指す。							
到達目標							
1. 4つの「きく」姿勢を意識して、相手の話の意図を探ることができる。 2. 話の内容を簡潔にわかりやすく伝える手法を使おうと努力する姿勢が身につく。 3. 対人コミュニケーションにおける第一印象や態度として、スマイルが意識的に表出できる。 4. 目的や相手、場に合わせた話し方ができる。 5. 自己のコミュニケーション行動の問題点をモニターできる。							
授業の方法							
プレゼンテーションやスピーチについて、毎授業時での少人数ごとのグループ活動を通じて互いに気づき・修正しあい・フィードバックにつながる形で大きな発表形式にもっていく。							
ICT活用							
Google classroomを通じた課題提出のほか、パワーポイントその他を用いたプレゼンテーションを行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

自己評価や振り返りを含めた各課題はコメントを記して個別返却し、優秀な課題には、その学ぶべきところを全体の講評で紹介し共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ・「伝える」ことについて、「話しかた」「構成」「内容」	事前にシラバスを読んでおく(30分)	次回の「自己紹介」について、話す内容を整理しておく(150分)
担当教員			
第2回	自己紹介(グループ活動) ・いろいろな人に自己紹介をしてみる。 ・いい「自己紹介」を考える。	事前に自己紹介の内容を考えておく(30分)	いい「自己紹介」について考え、次回への糧とする。(150分)
担当教員			
第3回	伝えるためには「目を見て話す」(グループ学習) ・目を見て話す練習をする。 ・目線を配る練習をする。	今回のテーマについて、他の人の話している姿を観察しておく(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく(150分)
担当教員			
第4回	「聞く練習」と「話す形」(グループ活動) ・引き続き「目を見て話す」「目線を配る」練習 ・表情に気をつけてみよう ・傾いて聞く練習、および話し手の気持ち ・好きなもののことを考えて言葉にする練習	前回学んだことを思い出して確認しておく(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく(150分)
担当教員			

第5回	朗読とスピーチ・プレゼンテーションの違いについて(グループ活動) ・両者に決定的な違いがあることを体験する ・「調べ発表」風の節末上げ・文末上げを知り、撲滅に動く。	前回学んだことを思い出して確認しておく(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく(150分)
担当教員			
第6回	「好きなこと」発表練習(グループ活動) ・自分の「好きなこと」についてよく考え、売り込むにはどうすれば良いか見つけ出す。 ・好きなもののことについて発表リハーサル・ピアレビュー	今回のテーマ(「好きなこと」)について、話す内容をある程度考えておく。(30分)	今回のグループ活動を通じて気づいたこと・指摘を受けたことについて、しっかりと受け止めて発表の準備をする。(150分)
担当教員			
第7回	人前に立ってみよう ・「演説」を視聴し、観察・分析する。 ・人前に立って話してみる。	「演説」について考えておく(30分)	次回の発表についてしっかりと準備をする。(150分)
担当教員			
第8回	「好きなこと」発表(前半) ・好きなことについて発表する。 ・自分の発表を見ながら自己解説。	発表の準備(150分)	発表の反省、あるいは準備(150分)
担当教員			
第9回	「好きなこと」発表(後半) ・好きなことについて発表する。 ・自分の発表を見ながら自己解説。	発表の準備(150分)	発表の反省(150分)
担当教員			
第10回	最近流行りの「自己ブランディング」について。 ・自分のいいところ、売り込めるところは？ ・グループでお互いのいいところを提案し合う。	自己ブランディングについて調べておく(90分)	自己ブランディングについて調べる(90分)
担当教員			

第11回	「自己紹介・自己アピール」 ・状況を設定し(就職面接など)、売り込みポイントを探る。 ・自己紹介・自己アピールを構成する。	新しい「自己紹介」のことを考える(30分)	新しい「自己紹介」準備(150分)
担当教員			
第12回	「自己紹介・自己アピール」 ・グループに分かれてお互いに「自己紹介」および解説。	新しい「自己紹介」準備(150分)	今回学んだ内容を加味しつつ新しい「自己紹介」を準備(150分)
担当教員			
第13回	「自己紹介・自己アピール」発表(前半) ・前回までにつくりあげた「自己紹介・自己アピール」発表。	発表の準備(150分)	発表の反省、あるいは準備(150分)
担当教員			
第14回	「自己紹介・自己アピール」発表(後半) ・前回までにつくりあげた「自己紹介・自己アピール」発表。	発表の準備(150分)	発表の反省(150分)
担当教員			
第15回	発表(予備時間)、および総まとめ。	これまでの授業で学んだことを振り返る(60分)	これまでの授業で学んだことを振り返る(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内発表(2回)、小課題、授業参加度などの総合評価。	

その他	0	
教科書		
使用しません。		
参考文献		
『自分をどう表現するか パフォーマンス学入門』／佐藤愛子／講談社現代新書 ほか、書籍やサイトなどを授業で適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語教育法 I				ナンバリング	3351
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
この授業は、国内外で外国人に日本語を教えるための日本語教育の専門的知識を身につける(知識・技能)ことを目的とした日本語教員養成の科目で、「日本語教育法Ⅱ」「日本語教育演習」科目に発展する基礎科目である。日本語教員志望者だけでなく、国内外の企業で日本語非母語話者と日本語でコミュニケーションするために、日本語教育方法の知識を活かして、世界の日本語話者と協働していけるコミュニケーション能力を養成していく(思考・判断・態度)ために、ここでは音声指導法を中心に学ぶ。							
授業の概要							
この授業は、日本語を外国人に教えてみたい人のための日本語教授法入門である。日本語母語話者であれば、誰でも効果的に日本語を教えられるわけではない。今まで無意識に使っていた日本語を外国語の視点で分析する力が必要である。たとえば、「学校へ行く」と「学校に行く」のように、助詞の「へ」と「に」の違いや、基本的な「は」と「が」の使い分けなど、外国人に日本語を効率的に教えるには、日本語に関する言語学的専門知識と、それをどのように教えていけば学習者に理解・習得しやすいのか、日本語教授法の知識も求められる。この講義で、日本語の特徴とその教え方の「これだけは」知っておきたい基礎知識を身につけていく。							
到達目標							
1. 日本語の音声特徴が説明できる。 2. 日本語非母語話者の母語干渉を受けた音声傾向を述べることができる。 3. 初級日本語学習者への音声指導法が応用できる。 4. 伝統的な日本語／外国語教授法が分類できる。							
授業の方法							
授業では、プリントやスライドを使用した講義形式を柱にその演習を行う。また、代表的な日本語教授法を各回で少しずつ紹介し、その教授法を体験し、グループで各教授法のメリット・デメリットをディスカッションする。毎回、専門用語等授業内容の復習として小テスト(確認テスト)を行う。							
ICT活用							
Google Classroomを活用し、課題や資料提供、質問の受付を行う。課題も含めて授業では、動画サイトで日本語学習者に対する種々の日本語教授法例を閲覧して学んだり、オンラインで海外の日本語教育機関の日本語学習者と日本語交流したりして、日本語教育の方法を考える。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題には評価やコメントを添えて個別返却し、授業内で全体の講評をする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 海外における日本語教育の現状と日本語教育政策	国際交流基金サイトで海外の日本語教育事情を閲覧しておく。(90分)	配布プリントを読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第2回	日本語の音声Ⅰ 日本語の母音と子音、音素、無声化(日本語の子音と調音位置・調音法) [教授法1:文法翻訳法]	発音器官の名称と調音点・調音法を調べておく。(90分)	日本語の音声記号が読めるようにしておく。(90分)
担当教員			
第3回	日本語の音声Ⅱ 日本語の音節、リズム、アクセント、イントネーション [教授法2:直説法]	日本語の音節やアクセントについて調べておく。(90分)	条件異音の特徴と事例をまとめておく。(90分)
担当教員			
第4回	日本語初級学習者の音声 中国語母語話者の日本語音声の特徴 中国で日本語を学ぶ学習者とオンラインで日本語交流を行う。	中国語母語話者の日本語音声の特徴を調べておく。(90分)	中国語の母語干渉を受けた日本語音声の特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			

第5回	初級日本語音声・会話の教え方 母語話者別の日本語音声特徴と指導 [教授法3:オーディオリンガルアプローチ]	講義プリントを読んでおく。(90分)	国際音声記号が読めるようにしておく。(90分)
担当教員			
第6回	コミュニケーションのための創造的会話練習 初級レベルのロールプレーからタスク練習まで [教授法4:コミュニケーションアプローチ]	広義のコミュニケーション・アプローチとは何か、調べておく。(90分)	コミュニケーション・アプローチをまとめておく。(90分)
担当教員			
第7回	初級レベルの文字・表記 仮名と漢字の教え方 [教授法5:TPR][教授法6:サイレントウェイ]	配布プリントを読んでおく。(90分)	優先学習漢字300をチェックしておく。(90分)
担当教員			
第8回	日本語の文法的特徴Ⅰ 文法的特徴:動詞、主語と主題 [教授法7:CLL]	日本語の動詞分類を調べておく。(90分)	日本語初級レベル指導での助詞「は」と「が」の使い分けをまとめておく。(90分)
担当教員			
第9回	日本語の文法的特徴Ⅱ 形容詞、指示詞 [教授法8:ナチュラルアプローチ]	日本語教育の形容詞の分類を調べておく。(90分)	形容詞の分類と使い方を復習しておく。(90分)
担当教員			
第10回	日本語の文法的特徴Ⅲ 存在文と所在文 [教授法9:サジェストペディア]	助詞「に」と「で」の用法を調べておく。(90分)	ここまでの教授法の各特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			

第11回	日本語の文法的特徴Ⅳ 受身 [教授法10:内容重視の教授法]	日本語表現の受身用法を調べておく。(90分)	学習目的・学習者別の初級学習ニーズを考えておく。(90分)
担当教員			
第12回	日本語の文法的特徴Ⅴ 助詞の使い分け [教授法11:学習者中心の教授法]	助詞「は」「が」「を」の使い分けを調べておく。(90分)	初級レベルの助詞の練習問題10問を作成する。(90分)
担当教員			
第13回	文字・表記の教え方 仮名、漢字の導入方法	似ている平仮名・カタカナとその教え方を考えておく。(90分)	漢字語彙の導入方法を確認しておく。(90分)
担当教員			
第14回	日本語の語彙体系 語種と語構成	日本語の4つの語種を調べておく。(90分)	理解語彙と使用語彙をまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 指定する学習項目別の教え方を考え、ペアまたはグループで発表する。	課題発表準備。(120分)	各教授法をまとめておく(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表を含めた授業参加度50%、確認テスト50%	

その他	0	
教科書		
講義プリントを配布する。		
参考文献		
高見澤孟他『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』2016、アスク出版。高見澤孟『増補改訂版 新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』2016、アスク出版。ほか授業で適宜、紹介する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語表現技法 I (プレゼンテーション)				ナンバリング	1301/2264
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	矢部 玲子						
授業の位置づけ							
「話すことによって伝える」コミュニケーション能力を学修するための科目である。 ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。」ことと深く関係し、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。」とも関係がある。							
授業の概要							
この授業は、効果的なプレゼンテーションの方法を演習を中心に学ぶ。「話したいこと」だけを話す自分勝手に伝わらないプレゼンテーションを排し、聞く人が聞いてよかった・楽しかったと思えるような(そしてそれゆえにしっかりと内容が伝わるような)win-winのプレゼンテーションの考え方の基礎を完全に固め、実践的運用が可能となるレベルを到達目標とする。そのため授業は「構想・計画→入念な準備→実演→自己反省・相互批評」のループを通じて着実に技術を修得することのできるよう展開される。							
到達目標							
・聴衆を前に自分の主張を何も見ずに伝えることが出来る。 ・正しい服装・態度、豊かな声量・表情で聴衆に訴えることが出来る。 ・グループワーク(ディベート・グループプレゼンテーション)に積極的に取り組み、協働・協調的行動を取ることが出来る。 ・パワーポイントを駆使して聴衆に自分の主張を訴え、共感を引き出すことが出来る。 ・大衆の共感を得られる内容の動画などをグループで作成し、SNS上に公開することができる。							
授業の方法							
・板書、視聴覚メディア、ICT、印刷物を使用して講義形式で説明を行う。 ・説明に基づき、個人で発表(スピーチ・パワーポイント)の準備を行い、発表する。 ・説明に基づき、グループで討論(ディベート)の準備を行い、討論・審判を行う。 ・説明に基づき、グループで大衆の共感を得られる内容の動画などを作成し、SNS上に公開する ・発表・討論の相互評価と自己評価を行う。評価結果は個人・グループにフィードバックする。							
ICT活用							
・Web上でのアプリケーション(アンケートフォームを用いたプレゼンテーション相互評価の入力・送信・閲覧によるフィードバックに基づく自己評価入力・送信)を用いた双方向授業を取り入れる。 ・プレゼンテーションのスライド作成や発表によるPCやプロジェクターの操作を用いた双方向授業を取り入れ、ICT技術の修得を促す。 ・SNS投稿などを通じて、ネット上における配慮事項の修得を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

公立中学校・高等学校の国語科教師としての勤務経験が約10年あり、国語科教育の「話す・聞く」指導に幅広い知識と経験を有する。左記を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・ディベートに対する相互評価・自己評価のシェアリングによって履修の成果と課題・解決方法を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション コミュニケーション能力の大切さを認識する。 教材提示(配信)、授業の進め方を説明する。 社会で高評価を得ているプレゼンテーションや日本の伝統 話芸を鑑賞して自身の今後に資する。 上記の学修内容を確認しておく。(90分)	上記の学修内容を事前に確認 しておく。(90分)	配信教材を印刷し一読する。 (90分)
担当教員	矢部 玲子		
第2回	スピーチ(自己紹介) 配信教材等に基づいて説明する。説明の後、各自原稿作成 や口頭発表の準備を行う。	配信教材等を参考にして原稿 作成や服装・姿勢・声量・声調 等発表準備をしておく。(90分)	上記の学修内容を確認する。 (90分)
担当教員	矢部 玲子		
第3回	スピーチ(自己紹介)実演1 前回の準備に基づいて履修者の半数について行う。1人3 分以内。 発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行 えるよう、評価方法を理解して臨 む。(90分)	次回発表者は原稿作成や発表 準備をしておく。発表終了者は 相互評価を熟読し自らの課題を 明確化する。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第4回	スピーチ(自己紹介)実演2 前回の準備に基づいて履修者の残り半数について行う。1 人3分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行 えるよう、評価方法を理解して臨 む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読 し自らの課題を明確化する。(90 分)
担当教員	矢部 玲子		

第5回	PPTを用いた発表1(私のオススメ) 上記について説明する。説明の後、各自発表項目決定、スライド作成や発表の準備を行う。(1人5分以内)発表後、相互評価と自己評価を行う。	PPTの操作方法を確認しておく 他人にその素晴らしさを一番知ってほしい物(事・場所・人)について考えておく。(90分)	PPTを用いた発表の準備を進める。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第6回	PPTを用いた発表2(私のオススメ) 前回の準備に基づいて履修者の1/3について行う。1人5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	自身の「お勧め」を明確化しておく。(90分)	スライド作成などの準備を進める。次回発表者は準備を完了させる。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第7回	PPTを用いた発表3(私のオススメ) 前回の準備に基づいて履修者の1/3について行う。1人5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	次回発表者は発表準備を完了させる。発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第8回	PPTを用いた発表4(私のオススメ) 前回の準備に基づいて履修者の残り半数について行う。1人5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第9回	「ミニ・ディベートの実践」(1) 「ディベートの方法」に関する発表を振り返り、履修者全員でディベートに取り組む。 ・論題を決定する。 ・肯定側・否定側・審判・聴衆に分かれる。 ・各役割の確認を行う。 ・論題に基づき、立論・反駁を計画立案する。	配信教材等を熟読し、ディベートについて理解しておく。(90分)	自身が分担した役割が果たせるよう準備しておく。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第10回	「ミニ・ディベートの実践」(2) 前回分担した役割に沿って実際にディベートを行い、審判する。聴衆役は、肯定側・否定側・審判のうち、どの役割が一番優れているか審判する。	授業で示したテーマについて意見文を作成する(90分)	次週の課題発表の準備(90分)
担当教員	矢部 玲子		

第11回	グループプレゼンテーション1(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) 上記の内容でグループプレゼンテーションを準備する。具体的には履修者間でグループを組み、各自担当とテーマを決定し、発表・投稿等の準備に取り組む。	教材の該当記述を確認する等して、各自の役割を十分に果たせるよう準備の上授業に臨む。(90分)	グループで決定した内容と役割が順調に実施できるよう準備する。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第12回	グループプレゼンテーション2(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) グループで協力して発表する。(1グループ5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。)	教材の該当記述を確認する等して、各自の役割を十分に果たせるよう準備の上授業に臨む。(90分)	自己評価・相互評価を通して、今回自分の果たした役割を総括する。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第13回	グループプレゼンテーション3(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) グループで協力して発表する。(1グループ5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。)	発表者は発表準備をして臨む。観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	次回発表者は発表準備を完了させる。発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第14回	グループプレゼンテーション4(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) グループで協力して発表する。(1グループ5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。)	発表者は発表準備をして臨む。観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し、自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第15回	グループプレゼンテーション5 全グループ発表済みの場合は、プレゼンテーションのWeb上配信方法技術等を講義する。	発表者は発表準備をして臨む。観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	スピーチ(20)、PPTやSNSを用いた発表(50)ディベート(30) 合計100点 出席率66%以上を評価対象とする。	

その他	0	なし
教科書		
使用しない。		
参考文献		
授業内で適宜指示する。		
履修条件・留意事項等		
実際に授業に参加して発表した内容を評価する。 状況に応じて授業計画を調整する場合がある。 必要に応じて教材配信システムを使用する。 発表日に欠席すると単位取得放棄とみなすことがある。 実際に授業に参加して発表した内容を評価する。 メールが届いたか、返信は必要か、等を常にチェックするように。 メールでの問合せ等には必要に応じて対応する。 メールでの言葉遣いには十分に注意すること。不適切な言葉を使用した場合は、減点の対象とし、度重なる場合は単位認定しない場合もある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		語学研修 語学研修					
科目名		短期語学研修				ナンバリング	2900
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	2
担当教員	渡部 淳、矢部 玲子、Richardson Peter、Walzem Allen George						
授業の位置づけ							
この授業は「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力、柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えるための科目である。(関心・意欲・態度)」や「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。(知識・技能)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この研修は、本学の英語圏および中国語圏の提携校において語学学習と異文化体験を行う。語学力だけでなく、コミュニケーション能力やチャレンジ精神、積極性、行動力を身につけること、大学の授業で身につけた専門性を基に、それまでの学習成果を確認し、課題を見つけることを目標とする。現地研修をより充実させ、目標を達成するために、出発前には学内で実施する研修に参加し、異文化適応力や危機管理について学ぶ。							
到達目標							
この授業は、学生が、異文化や外国語を母語とする多様な人々と臆することなくコミュニケーションができるようになり、自分の考え方や文化を相対化して考える姿勢を身につけることを到達目標としている。							
授業の方法							
研修前のオリエンテーションや事前研修、海外の大学での講義・ワークショップ・インターン等、あるいは海外の大学が提供するオンラインプログラム、研修後の報告プレゼンテーションや課題などを通して、語学力やコミュニケーション能力、積極性を身につけさせる。							
ICT活用							
オンラインを活用した講義。zoomなどオンラインを活用したコミュニケーション活動。							
実務経験のある教員の教育内容							

海外の大学に留学・勤務した経験のある日本人教員。英語圏や中国語圏などで教育・研究を経験したことがある外国人教員。

課題に対するフィードバックの方法

事前研修や研修の報告、語学研修、事後の課題等に対して担当教員よりコメントをコメントや評価をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】 短期語学研修の概要や、今後の事前・事後に必要な心構えや基本的な知識などについて、講義する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第2回	【事前研修】 海外提携校での研修に備えて、英語圏や中国語圏の生活習慣・危機管理や街の様子などを学び理解する。現地で役立つ言葉や交流に不可欠な自己紹介などを練習する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第3回	【海外提携校の提供するプログラム】 リスニング(聴解)1。 英語や中国語などのリスニング能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第4回	スピーキング(会話)1。 自分の考えを表現する力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			

第5回	リーディング(読解)Ⅰ。 一定量の文章を的確に理解する能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第6回	ライティング(文章表現)Ⅰ。 自分の考えを文章で表現する力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第7回	リスニング(聴解)Ⅱ。 英語や中国語などのリスニング能力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第8回	スピーキング(会話)Ⅱ。 自分の考えを表現する力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第9回	リーディング(読解)Ⅱ。 一定量の文章を的確に理解する能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第10回	リーディング(読解)Ⅱ。 一定量の文章を的確に理解する能力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			

第11回	ライティング(文章表現)Ⅱ。 自分の考えを文章で表現する力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第12回	グループ・ディスカッション。 多様な人々と意見を出し合い、対話や議論の中から新しい発見をすることを英語や中国語で挑戦する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第13回	プレゼンテーションⅠ。 個人またはグループで与えられたテーマについて、英語や中国語などの外国語での確に表現し相手に伝えることを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第14回	プレゼンテーションⅡ。 与えられたテーマや課題について個人またはグループで考えた内容を、視覚資料などを用いながら効果的に発表する方法を学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える(90分)。
担当教員			
第15回	【研修報告のプレゼンテーションと課題】 研修成果とふりかえり、自分自身の変化や成長をうながすために、研修についての報告プレゼンテーションを行い、研修全体を振り返った課題を提出する。自分自身の学びについて客観的に捉え、他者と共有することを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える(90分)。	授業中に指示された課題などをこなして、授業のふりかえりと復習を行う(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行いません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	オリエンテーションへの参加態度(10%)、事前研修・課題(10%)、海外提携校で成績や評価(60%)、研修後プレゼンテーション・課題(20%)。	

その他	0	特になし。
教科書		
研修先で指定された場合には、それにしたがいます		
参考文献		
適宜指示します。		
履修条件・留意事項等		
新しいことや知らないことに積極的に挑戦し、異なる考え方や生活習慣に柔軟に考えて対応できるしなやかな感性を持って研修に臨むこと。		
備考欄		